

講義要綱(シラバス)

令和3年度

授 業 概 要

| | | | | | | | | |
|-----------|---|--|---------------|----|---|------------|--|--|
| 科目名 | 総合人間学 | 担当者 | 大村 壮 田中 悦子 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 20時間 ／1単位 | |
| 学修内容 | 看護を必要とする人々は人間である。その人間について、様々な視点から概観することは、人間の理解を広く深くすることにつながる。そして、それが看護を必要とする人々のすべての営みを総合的にとらえる視点に変換され、目指す看護に奥行きをもたらしてくれると考える。「総合人間学」は、入学後間もない時期に人間についての総合的な学習をする科目である。講義を通して、受講者の人間観の変化を期待するものである。 | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 看護を必要とする人々を広く深く知ることの必要性を認識する。 2. 様々な視点からの人間観を学び、人間への理解を深める。 ①人間存在の意義 ②死ぬ存在としての人間 ③行動する人間 ④生活者としての人間 ⑤ケアする人間 ⑥生きがいをもつ人間 ⑦身体をもつ人間 ※「成長発達する人間」「心をもつ人間」は、大村講師が担当する 3. 自らの人間観を広めかつ深める機会を通し、自分自身を見つめる機会とする。 | | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） | |
| | 第1回－ 講義概要、あなたの考える人間とは | | | | | | 本講は、プロジェクト学習の一部を取り入れ、自分の目標を提示し、講義資料等は、ポートフォリオに綴っていただきます。 講義ごとに感想を提出します。感想、講義への参加度を評価として採用します。 ※詳細は初回ガイダンスで説明 | |
| | 第2回－<生きがいをもつ存在>としての人間 | | | | | | | |
| | 第3回－<身体をもつ存在>としての人間 | | | | | | | |
| | 第4回－<こころを持つ存在>としての人間 | | | | | | | |
| | 第5回－<いつか死をむかえる存在>としての人間 | | | | | | | |
| | 第6回－<成長発達する存在>としての人間 | | | | | | | |
| | 第7回－<行動する存在>としての人間 | | | | | | | |
| | 第8回－<生活する存在>としての人間 | | | | | | | |
| | 第9回－<ケアする存在>としての人間 | | | | | | | |
| | 第10回－ 統合体としての人間 | | | | | | | |
| | ※ 第4回・第6回の講義は、大村講師が担当 | | | | | | | |
| 成績評価 | ・方法 | レポート、授業への参加度 | | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・事前課題 | 事前課題を提示することが多々あります。1回目以降に随時提示いたします。 | | | | | | |
| | ・留意点 | 本講義は、様々な切り口から人間を探求します。人間探求の旅は、自分自身を知ることであり、大変興味深くかつスリルに満ちた旅です。つまり、皆さん自らの体験を振り返り、それを教材にして考えることを取り入れていきます。そこから人間を探求してほしいと考えています。実は、人間の本質を知らずし奥深い看護はできないのです。本講義は2人の講師による共同作業を進めていくこととなります。それぞれの講義からの人間理解の視点を統合し、最終的には看護に生かしていく皆さんの力に期待します。（田中） 授業は教員が一方的に喋っているだけでは成り立ちません。また教員が正解を話しているとも限りません。教員の話をつまみこみせずいつも自分なりに考えながら授業に取り組んでもらいたいです。（大村） | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・テキスト | 特に指定しない。 | | | | | | |
| | ・必要物品 | 特になし | | | | | | |
| 参考文献 | ① 小田正枝、園山繁樹編集、『総合人間学概論』、ヌーベルヒロカワ、2010.1.1 ② 神谷美恵子、『生きがいについて』 みすず書房 ③ ミルトン・メイヤロフ、『ケアの本質-生きることの意味-』、ゆみる出版、1993 ④ 浜渦辰二編集、『ケアの人間学入門』、知泉書館、2005.11 ⑤ 小林直樹編、『総合人間学の試み～新しい人間学に向けて～』、学文社、2006 ⑥ 日本医学教育学会編、『人間学入門～医療のプロをめざすあなたに～』、南山堂、2009 ⑦ 日野原重明、『いのちの使い方』、小学館、2012.10 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|---|--------|----|---|------------|---|
| 科目名 | コミュニケーション論 | 担当者 | 上藤 美紀代 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 15時間 /1単位 |
| 学 修 内 容 | 人間関係というものは、私たちの生活には不可欠なごく日常的な現象であるが、よりよい関係を築いていくために、特に医療者としては、コミュニケーションスキルは非常に重要な技術となる。人間関係を築くうえで必要な知識や技術、心構え(思いやり)を、主に話し方(声の出し方や遣い方)と聴き方の演習を通して習得する。「コミュニケーション」とは何かも考えていきたい。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係を築いていくために必要な知識や技術、心構えを身に付ける。 ・コミュニケーション能力を向上させ、人との関わりに自信を持つ。 ・医療者(対人援助職)として、「人間関係」及びその「構築」について考察し、実践していく力を養う。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法(形成評価等を含む) |
| | 第1回 | オリエンテーション(ヴォイスセラピーについて。コミュニケーションにおける「声」の重要性) | | | | | 基本的呼吸法、発声法、滑舌訓練を行う。 |
| | 第2回 | 自分と向き合う(声による表現を通して自分を知る)。 | | | | | 「寿限無」をテキストに読み方(表現の仕方)を通して自己分析を行う。 |
| | 第3回 | コミュニケーション・スキルの基礎 話すときく | | | | | 3人で1グループをつくり、お互いの話し方、きき方を観察する = 自分の話し方、きき方を知る。 |
| | 第4回 | コミュニケーション・スキルの基礎 観る | | | | | 3人で1グループをつくり、二人の対話を観察する。この観察を通して自分の観る力を知る。 |
| | 第5回 | インタビューを通して他者との関わり方を学ぶ(ビデオ撮影) | | | | | 出席番号順に全員がインタビューとインタビューを受ける立場を体験する。この体験を通して自分の良いところを知り、自信につなげると同時に、クラスメイトの良いところ(優れたところ)を見出し、気づきや学びを得る。 |
| | 第6回 | インタビューを通して他者との関わり方を学ぶ(ビデオ撮影) | | | | | |
| | 第7回 | インタビューを通して他者との関わり方を学ぶ(ビデオ撮影) | | | | | |
| | 第8回 | インタビュー体験の振り返り・まとめ及び補足 | | | | | ビデオを見て、自分の表情や姿勢、しぐさなどを反省し、(コミュニケーション)スキル向上のための課題を見つける。 |
| 成 績 評 価 | ・方法 | 筆記試験、課題レポート、授業時のミニレポート、取り組み姿勢、出席状況 | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | 各回の授業を通し、人間関係を築いていくうえでの自身の課題が見つかると思うが、日常生活や社会生活の中で、その課題を解決あるいは克服する努力を自主的に続けていってほしい。 | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト | 授業時にプリントを配布。 | | | | | |
| | ・必要物品 | 筆記用具。 | | | | | |
| 参 考 文 献 | 『人間関係づくりトレーニング』 星野 欣生 著 金子書房 『ケア・コミュニケーション Care Communication』 麻生塾ケア・コミュニケーション研究会 編著 荒木登茂子 監修 株式会社 ウィネット | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|--|-------|----|---|------------|---------------|
| 科目名 | 形態機能学 I | 担当者 | 吉野 吾朗 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 15時間 /1単位 |
| 学 修 内 容 | <p>生き物とは何か？ 生き物のからだの成り立ち、かたちとはたらきの関係について学ぶ。</p> | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <p>人体の部位の名称や臓器の名称を学ぶ。 人体を構成するしくみと働きに関する基礎的な知識を習得する。 人間の日常生活行動を支える生命活動である体や臓器を守るしくみを学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回：講義 | 自己紹介、解剖学用語 | | | | | 講義形式(配布資料等) |
| | 第2回：講義 | 器官 | | | | | |
| | 第3回：講義 | 組織 | | | | | |
| | 第4回：講義 | 組織、細胞 | | | | | |
| | 第5回：講義 | 細胞 | | | | | |
| | 第6回：講義 | ホメオスタシス | | | | | |
| | 第7回：講義 | 体温 | | | | | |
| | 第8回：試験 | 試験(45分) | | | | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 | 筆記試験(配点は評価配分表を参照) | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | 受講生への要望： 予習してきて下さい(指定された範囲のテキストを読んでくる)。 | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 増田敦子監修 解剖生理をおもしろく学ぶ | | | | | 医学書院 サイオ出版 |
| | ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-------|---------------|---|----------|---------------|
| 科目名 | 形態機能学Ⅲ 体を守るしくみ | 担当者 | 大石 祐子 | 年次 | 1 | 時単 間位 | 4/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 人体の全身を覆う皮膚・粘膜がどのような構造となっているのか、その役割(機能)について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | ① 人にとっての皮膚・粘膜の重要性を理解する。 ② 皮膚・粘膜の解剖学的構造を理解する。 ③ 皮膚・粘膜の機能とその仕組みを理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 1. 外界からの刺激から体を守る「皮膚」・「粘膜」の構造 | | | 講義 | | | |
| | 2. 「皮膚」・「粘膜」のもつ働きとそのしくみ | | | 講義 | | | |
| 成 績 評 価 | ・ 方法 筆記試験 形態機能学Ⅲのうち、15点分の配点となります。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・ 事前課題 ・ 留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義終了後、所感を記入してもらうことがあります。 ・毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・ テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・増田敦子 監修: 解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|--------|----|---|------------------|--|
| 科目名 | 形態機能学Ⅲ 「身体を支える仕組み・ 動かす仕組み」 | 担当者 | 吉田 五百枝 | 年次 | 1 | 単 位 時 間 | 8/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 運動機能とは、単に身体を動かすことだけでなく生命維持のための心臓や肺、コミュニケーションのための目や口、表情、食物を消化吸収することや排泄の機能も其々の筋肉による運動である。このように人間が生きることに「運動」は欠かすことができないもので、それを支える骨や筋肉、操っている脳神経などを理解することは人間の活動を理解するための重要な学習である。障がいや疾病によって様々な運動機能が障がいされることは、臨床ではしばしば見られる症状である。この障がいや症状を理解した上看護を実践するために、本来の健康な人間の運動のメカニズムを理解することが基本となる。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 1) 骨の構造と形成、仕組みについて理解する。 2) 筋の構造と収縮メカニズムについて理解する。 3) 全身を覆い運動を支える骨格筋の構造と仕組みを理解する。 4) 生命活動や生活動作を支える運動のメカニズムについて理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回 骨の仕組みと動きについて | | | | | | 講義 入学前プログラムの内容の確認テスト |
| | 第2回 筋の構造と働きについて | | | | | | 講義 小テスト: 全身の骨の名称 事前学習: 筋収縮のしくみ |
| | 第3回 運動のメカニズム(生命動作を支える働き) | | | | | | 講義 小テスト: 筋の構造と名称 事前学習: 動きを支える骨と筋 |
| | 第4回 運動のメカニズム(生命活動を支える働き) | | | | | | 講義 |
| 成 績 評 価 | ・ 方法 : 筆記試験(20%) 講義内で実施する小テストは10%の評価とする。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・ 事前課題 「骨の構造と名称」「筋の構造と名称」の事前課題資料を使用し学習する。 ・ 留意点 自分の身体を動かしながら学んでほしい。 視聴覚教材のDVD(生体のしくみ第15・16集)を講義の中で使用する。DVDは学内であれば貸出可能である個人の復習として活用してほしい。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・ テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他: 解剖生理学をおもしろく学ぶ サイオ出版 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(10)運動器 医学書院 菱沼典子:看護形態機能学 改訂版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|--|--------|--------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 形態機能学Ⅲ 呼吸のしくみ | 担当者 | 朝比奈 結華 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 8/30時間 1単位 |
| 学修内容 | 呼吸は私たちが起きているときも寝ているときも意識することなく行われている。しかし、呼吸は生きていく上で欠くことのできない生命活動である。日常生活を送るために不可欠な呼吸について、どのような役割を担っているのか、呼吸のしくみ、働きを学んでいく。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> ① 人にとっての呼吸の大切さがわかる。 ② 呼吸に関わる器官の構造と機能を理解する。 ③ 外呼吸と内呼吸のしくみを理解する。 ④ 酸塩基平衡の調節における呼吸の役割を理解する。 ⑤ 呼吸運動を調節しているしくみを理解し、健康な呼吸を維持していくためのケアを考える。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1回 | 呼吸の意義・「息をすう・はく」ための器官の構造 | | 講義 | | | |
| | 第2回 | 「息をすう・はく」ための器官の機能 呼吸器官の周囲の構造と機能 | | 講義 | | | |
| | 第3回 | 肺におけるガス交換（外呼吸）細胞におけるガス交換（内呼吸） 呼吸における酸・塩基の調節 | | 講義 | | | |
| | 第4回 | 呼吸運動 呼吸の調節 健康な呼吸を維持していくためのケア | | 講義 | | | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 形態機能学Ⅲのうち、20点の配点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 ② 毎回の講義終了後に、復習プリントを提出してもらうことがあります。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・増田敦子 監修：解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)呼吸器 医学書院 菱沼典子著「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」日本看護協会出版会 ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|----------|---|-----|-------|--------------|---|----------|---------------|
| 科目名 | 形態機能学Ⅲ 「咀嚼と嚥下のしくみ」 | 担当者 | 寺岡 智子 | 年次 | 1 | 時間 単位 | 4/30時間 1単位 |
| 学修内容 | 人間にとって「食べる」ことは、生命の維持や活動していくために必要不可欠なエネルギー源を得ることであり、日常生活行動のひとつである。「食べる」という過程は、食を感じ、食物を口に入れ、食物を噛み砕いて飲み込む。そしてからだの中で消化・吸収するということが行われる。この単元で学ぶ「咀嚼と嚥下のしくみ」は、この食行動における過程のひとつであり、食物を細かく砕き、唾液とよく混合し、食塊を咽頭、食道を経て胃に送り込むことであることを学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 咀嚼・嚥下が人間にとって必要不可欠である「食べる」、そして消化・吸収へのつながりにおいてどのような機能を担っているかを学んでほしい。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| 第1回 講義 | 咀嚼・嚥下に至るまでの過程について ・食欲とは ・食行動について 食物を噛み砕き(咀嚼)、味わうしくみ | | | 講義 | | | |
| 第2回 講義 | 飲み込む(嚥下)しくみ 消化・吸収へのつながりについて | | | 講義 | | | |
| 成績評価 | 方法 筆記試験(15点分) 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | 事前課題 留意点 ・自分自身の体について興味を持ち、普段あまり意識することなく行っている「食べる」という行動を意識して学んでいきましょう。 ・授業後は必ず復習を行い知識を理解していきましょう。 | | | | | | |
| テキスト | ・坂井建雄他:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 ・増田敦子他:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 | | | | | | |
| 参考文献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|-----|--------|----|---|------------|---------------|
| 科目名 | 形態機能学Ⅲ 「尿を生成するしくみ」 | 担当者 | 西尾 友理子 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学修内容 | <p>私たちは毎日排便するとは限らない。しかし排尿しない日はない。これは体内で産生される老廃物や過剰な電解質を水に溶解して腎臓が速やかに体外に排出しているためである。尿を生成することにより、循環する血液の量とその科学的組織は一定に保たれる。本単元では、生命を維持していく上で必要不可欠な体液の恒常性(ホメオスタシス)を保つ生理機能である尿を生成するしくみと排尿するしくみについて学んでいく。排尿するしくみについては自己の体験をふまえ、尿意を感じ、トイレに行くという一連の排泄行動を含めて学んでいく。学びからアセスメントや看護援助の基礎を確立することにつなげる。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 畜尿、排尿のメカニズムがわかる。 2. 日常生活での自己の正常な排尿行動を意識することで異常がわかる。 3. 尿量調整のメカニズムがわかる。(糸球体濾過量の調節/尿の濃縮のしくみ) 4. 尿濃縮調整作用、体液量を調整する内分泌機能を理解する。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) |
| | 第1回 尿はどのように排泄されるのか 畜尿、排尿のしくみ 尿の通り道/尿意を出す | | | | | | 講義 |
| | 第2回 尿は何故つくられるのか(腎臓の構造と機能) 糸球体と尿細管の組織構造とそのメカニズム(濾過 再吸収 分泌) | | | | | | 講義 |
| | 第3回 体液量・血圧を調整する内分泌機能 (レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系・バソプレッシン) | | | | | | 講義 |
| 成績評価 | <p>・方法 筆記試験</p> <p>・基準 形態機能学Ⅲのうち20点分の配分とする</p> | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・留意点</p> <p>1年次で講義時期も5、6月のため、臨床場面の想像がつきにくいと考えられる。興味をもって授業に臨めるように、テキストからだけでなく学生が理解しやすい言葉と臨床現場の状況など交えながら、普段の自分の身体や生活行動と尿を生成する仕組み、排尿の仕組みを結び付けて講義を行う。</p> | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト 坂井建雄他:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版</p> <p>・必要物品</p> | | | | | | |
| 参考文献 | <p>阿部信一ら:系統看護学講座 専門⑩成人看護学(8)腎・泌尿器 医学書院 病気がみえる⑧腎・泌尿器 メディックメディア 金子大輔:世界一まじめなおしこ研究所 保育社 菱沼典子:看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 菱沼典子:図解 見えない身体 ライフサポート社 ナーシング・グラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版 一般社団法人日本腎不全看護学会:腎不全看護第5版 医学書院</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|---|-------|----|---|--------------|---------------|
| 科目名 | 形態機能学Ⅳ 「外部の情報を取り入れる」 | 担当者 | 竹田 直子 | 年次 | 1 | 時間 単 位 | 8/30時間 1単位 |
| 学修内容 | <p>私たちは、常に外部環境からの刺激をとらえ、適切な反応をすることによって危険から身を守ったり、よりよく生きるためのに行動しています。この外部の情報を取り入れているのが感覚受容器です。感覚受容器には特殊感覚器でとらえたアナログ情報をデジタル情報に変換する変換機としての機能があります。その感覚器がとらえた情報を神経細胞が正確に脳や脊髄に伝えることによって人はより良く生きていくことができるのです。</p> <p>この単元では外部の情報を取り入れる感覚受容器としての視覚・聴覚・嗅覚・味覚・痛みの仕組みとその機能を学習します。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚受容器の種類・しくみを理解する。 2. 感覚受容器の機能や特徴を理解する。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | 方法（形成評価等を含む） | |
| | 第1回 | 眼の仕組みと視覚の機能 なぜ、光や色を感じることができるのか？ | | | | 講義 | |
| | 第2回 | 耳の仕組みと聴覚・平衡覚の機能 なぜ、音を聞き分けることができるのか なぜ、遊園地のコーヒーカップに乗った時平衡感覚が保てるのか？ | | | | 講義・確認テスト | |
| | 第3回 | 味覚器の仕組みと味覚の機能、嗅覚器の仕組みと機能 なぜ、味覚と嗅覚は生きていくうえで大切なのか？ | | | | 講義・確認テスト | |
| | 第4回 | 痛みの分類、疼痛のメカニズム 痛みはは私たちに何を教えてくれるのか？ | | | | 講義・確認テスト | |
| 成績評価 | <p>・方法 筆記試験(25点分)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・事前課題 解剖学的な部位、名称、生理機能は、課題プリントを使って予習(提出あり) 入学前プログラムでも予習できる</p> <p>・留意点 自分のからだや普段の生活行動に置き換えて考えると学びやすい 毎時間の最初に、前回分の確認テストを行うので、復習して臨む</p> | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト 坂井建雄:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 増田敦子:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版</p> <p>・必要物品 第1回・第3回 手鏡</p> | | | | | | |
| 参考文献 | <p>成人看護学[7]脳・神経疾患患者の看護 医学書院 成人看護学[12]皮膚患者の看護 医学書院 成人看護学[13]眼疾患患者の看護 医学書院 成人看護学[14]耳鼻咽喉疾患患者の看護 医学書院 菱沼典子:看護形態機能学 改訂版 生活機能から見るからだ 日本看護協会出版会 読んでわかる解剖生理学 竹内修二 医学教育出版社</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|--------|----|---|------------------|---|
| 科目名 | 形態機能学Ⅳ 情報を判断し伝達する | 担当者 | 吉田 五百枝 | 年次 | 1 | 単 位 時 間 | 6/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 人は外部環境からの刺激をとらえ、適切な反応をして身体の安定を図っている。同時に身体の内部でも刻々と変化する内部環境の状態をとらえ、その変化に反応して恒常性を維持している。体内の環境を一定に保つためには変化をキャッチするしくみ(受容器)と、それに反応するしくみ(効果器)が必要であり、この受容器と効果器をつなぐ通信ネットワークが神経系の役目である。この講義では、人が情報を得て判断し伝えるための機能について学習する。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人が情報を得て判断し伝えるための機能を理解する。 2. 神経系の全体像をとらえ、中枢神経系・末梢神経系の役割を理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) |
| | <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の全体像をとらえる 2. 中枢神経系・末梢神経系の役割 3. 神経系の障害による症状と生活への影響 | | | | | | 講義 入学前プログラムの内容の確認テスト 講義 小テスト;第1回目の内容 講義 小テスト;第2回目の内容 |
| 成 績 評 価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(20%) 第2・3回目の小テストの点数は20%の中に含まれる ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 視聴覚教材のDVD(生体のしくみ第12集)を講義の中で使用する。DVDは学内であれば貸出可能である。 個人の復習として活用してほしい。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・坂井建雄他 : 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・増田敦子 監修 : 解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・香春知永他 : 系統看護学講座 専門基礎分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論, 医学書院. ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | <ul style="list-style-type: none"> ・岡庭豊:病気がみえる 脳神経 第1版, メディックメディア. ・熊谷たまき他監修:フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メディックメディア. ・竹村信彦:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7, 医学書院. | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|-----|--------|----|---|------------|---------------|
| 科目名 | 形態機能学Ⅳ 「話す・考える」 | 担当者 | 朝比奈 結華 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学修内容 | <p>私たちの体の組織や器官はお互いに協調し、調和を取りながら、発育(成長)や生命活動をしている。そのために、環境の変化やストレスなどに対応して、常に密接に連携し、安定した状態(恒常性:ホメオスタシス)に保つシステムがある。それが、神経系と内分泌系の2つのシステムである。また、神経は①皮膚など、体の末端でキャッチした(情報)を送る、②送られてきた情報を分析、整理、判断し、これに適応した決定を下す、③決定を実行するように(抹消)に伝える、という3つの役割を担っている。この科目では、脳の中の中枢神経の働きとして、「考える」ことと、運動機能としての「話す」しくみについて学び、人の「話す」「考える」メカニズムについて理解を深める。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1)人にとって「考える」とはどのようなことか理解できる。 2)人にとって「話す」とはどのようなことか理解できる。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法(形成評価等を含む) |
| | 第1回 中枢神経の解剖を知ろう | | | | | | 講義・小テスト実施 |
| | 第2回 脳の働きを知ろう | | | | | | 講義・小テスト実施 |
| | 第3回 話すことと眠ることのしくみを知ろう | | | | | | 講義・小テスト実施 |
| 成績評価 | <p>・方法:筆記試験20点の配点(形態機能学Ⅳのうち)</p> | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・事前課題 授業前に課題提示された場合は取り組んで参加すること</p> <p>・留意点 形態機能学Ⅳ「外部の情報を取り入れる」「情報を判断し伝達する」との関連性が高いので、つなげながら学習を深めましょう。</p> | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト 坂井建雄他:系統看護講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学, 医学書院</p> <p>増田敦子著:解剖生理を面白く学ぶ, サイオ出版</p> | | | | | | |
| 参考文献 | <p>菱沼典子著:看護形態機能学 改訂版 生活行動からみるからさ, 日本看護協会出版会</p> <p>長谷川泰弘他:日本一カンタン・わかりやすい 脳神経の解剖&疾患ノート</p> <p>松村譲児:イラストでまなぶ解剖学</p> <p>田中越郎:イラストでまなぶ生理学</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|-------|----|---|-----------------------|---------------|
| 科目名 | 形態機能Ⅳ 「子孫を残す」 | 担当者 | 増田 瑞枝 | 年次 | 1 | 単 位 間 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | <p>子孫を残すことは生物が生物たるゆえんである。人間は有性生殖で、男性と女性の2つの性により子孫を残していく。子孫を残すことは人間の本能的な欲求であり、子孫を残すことが続く限り生命は受け継がれていく。また、人間が子どもを産むのは生物として遺伝子を残すという本能だけでなく、家族を迎えるという社会的存在としての意味もあり、極めてプライベートな営みでもある。</p> <p>この単元では、子孫を残すために備わった性の違いを知り、性に関わる器官の構造と機能を学習する。</p> | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <p>(1) 男性と女性が子孫を残すための器官の構造と機能を理解する。 (2) 胎児が育つ過程を理解する。</p> | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回 性別の違い ・遺伝子による違い ・ホルモンによる違い 男性のからだ ・構造(精巣・性管・精嚢・前立腺・陰茎) ・機能(精子を作る・精子を送る・ホルモンを分泌する) | | | | | | 講義 |
| | 第2回 女性のからだ(1) ・構造(卵巣・卵管・子宮・膣・外陰) ・機能(卵子を作る・ホルモンを分泌する・性周期) | | | | | | 講義 ・ 小テスト |
| | 第3回 女性のからだ(2) ・機能(受精卵を育てる) 胎児期の生殖器の発生 | | | | | | 講義 ・ 小テスト |
| 成 績 評 価 | <p>・方法 筆記試験 20点配点(形態機能学Ⅳのうち) ・授業の取り組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する</p> | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <p>・留意点</p> <p>自分の身体を知ることが自分の生き方を考えるうえで大切なことです。 関心を持って学んでいきましょう。</p> <p>自分で絵や図をプリントに書いて学んでいきます。 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。</p> | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <p>・テキスト</p> <p>・坂井建夫他著:系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院</p> <p>・増田敦子監修:解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版</p> <p>・必要物品</p> <p>・色鉛筆</p> | | | | | | |
| 参 考 文 献 | <p>・森恵美他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院</p> <p>・森恵美他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院</p> <p>・菱沼典子著:看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会</p> <p>・橋本尚詞他著:新体系看護学全書 解剖生理学 人体の構造と機能① メヂカルフレンド社</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-------|----------------------|---|----------|---------------|
| 科目名 | 形態機能学Ⅳ こころの機能 | 担当者 | 後藤 治美 | 年次 | 1 | 時間 単位 | 4/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 「こころ」の構造を解剖学的な視点・精神医学からの視点で捉え、その働きを学ぶ。さらに、こころの働きと身体との関連について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | ① 「こころ」とは何かについて考えることができる。 ② 解剖学的に、どこが「こころ」の働きをつかさどっているのか、理解する。 ③ 精神医学的視点で「こころ」の構造を理解する。 ④ 「こころ」の働きと身体との関連を理解する。 ⑤ 「こころ」の健康を保つための人に備わる機能を理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 1. 「こころ」とは何か？ 2. 「こころ」と身体の関係 | | | 講義 グループワーク 講義 | | | |
| 成 績 評 価 | ・ 方法 筆記試験 形態機能Ⅳのうち、15点分の配点となります。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・ 事前課題 ・ 留意点 ① 毎回の講義終了後、所感を記入してもらうことがあります。 ② 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・ テキスト ・ 必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎, 医学書院. | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|-----|------|--------------|---|----------|---------------|
| 科目名 | 病理学 | 担当者 | 関 常司 | 年次 | 1 | 時間 単位 | 4/15時間 1単位 |
| 学修内容 | 病理学概論について学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 疾病の概略、用語を理解する。疾病の機序と回復の過程を理解する。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1、2回：講義 ① 病理学とは ② 先天異常と遺伝子異常 ③ 代謝障害 ④ 循環障害 | | | 講義形式（配布資料等） | | | |
| 成績評価 | ・ 方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・ 事前課題 ・ 留意点 ①受講前に15分間テキストを読むこと。 ②受講後に5分間ノートを見なおすこと。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・ テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院 ・ 必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|-----|-------|--------------|---|------------|----------------|
| 科目名 | 病理学 | 担当者 | 平松 毅幸 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 11/15時間 1単位 |
| 学修内容 | 疾患の成立する仕組みのうち、免疫、炎症、感染症、腫瘍に関して講師が説明します。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 疾病の発生機序と回復の過程を理解する。 2) 医学用語の意味を理解し、読み書き出来る。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| 授業計画 | 第1回：講義 免疫 第2回：講義 免疫 第3回：講義 炎症・感染症 第4回：講義 感染症 第5回：講義 腫瘍 第6回：講義 腫瘍 | | | 講義形式（配布資料等） | | | |
| 成績評価 | ・ 方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照）、出席状況、配布プリントの正答率 ・配布プリントを真面目に記入し、提出完了していなければ、筆記試験は受験出来ません。 ・総点数の70%は筆記試験点数。 ・総点数の30%は配布プリントの穴埋め点数。 配布プリントの穴埋めに、漢字間違いがある時や 仮名で置き換えて書いてある時は、間違いとみなします。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・ 事前課題 ・ 留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。 ② 配布プリントは講義の度に必ず持参すること。忘れても余分はありません。 ③ 配布プリントの空欄の答えを、講義のスライドを見て真面目に記入すること。 各单元(免疫、炎症、感染症、腫瘍)が終了した時に配布プリントは回収し、採点后、筆記試験の前までには、すべて返却します。 ④ 配布プリントの提出が間に合わなかった学生は、提出期限の4日目迄に担任に提出すること。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・ テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院 ・ 必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | シンプル病理学 休み時間の免疫学(第3版) | | | 南江堂 講談社 | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----------------------------|-------|--|------|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論 I (呼吸器系) | 担当者 | 田村 亨治 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 呼吸器系の一般的疾患について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1回：講義 | 感染症（インフルエンザ、COVID-19、肺炎、結核） | | 教科書の内容に、各種疾患の国内ガイドラインなどの内容を加えて、なるべく新しい知見を紹介する。 | | | |
| | 第2回：講義 | 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 | | | | | |
| | 第3回：講義 | 間質性肺疾患 | | | | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 | 筆記試験（配点は評価配分表を参照） | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | 受講生への要望： しっかり復習してください。 | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 | | | 医学書院 | | |
| | ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 | | | 医学書院 | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|-----|-------|---------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論 I (呼吸器系) | 担当者 | 広瀬 正秀 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 4/30時間 1単位 |
| 学修内容 | 肺がん外科治療や胸部外傷等について学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 肺の解剖、呼吸生理、肺癌の病態、肺癌の外科治療、 内視鏡手術の実際 | | | 講義形式 (配布資料等) | | | |
| | 第2回: 講義 胸部外傷、気胸、縦隔腫瘍 | | | 講義形式 (配布資料等) | | | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 (配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-------|--------------|---|------------|----------------|
| 科目名 | 病態生理治療論 I (循環器系) | 担当者 | 渡邊 明規 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 10/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 循環器系の解剖・生理、疾患等について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1～5回：講義 循環器系の解剖・生理 疾患について ①総論から心不全、症候について ②各論 心肺蘇生について | | | 講義形式（配布資料等） | | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 ・留意点 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|--|-------|----------------|------|------------------|----------------|
| 科目名 | 病態生理治療論 I (血液) | 担当者 | 前田 明則 | 年次 | 1 | 単 位 間 時 | 10/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 血液の基礎知識、血液造血器の主要疾患について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1回：講義 | 血液概論 | | 講義形式(配布資料・PC等) | | | |
| | 第2回：講義 | 赤血球の異常 | | 講義形式(配布資料・PC等) | | | |
| | 第3回：講義 | 白血球の異常、造血器腫瘍① | | 講義形式(配布資料・PC等) | | | |
| | 第4回：講義 | 造血器腫瘍② | | 講義形式(配布資料・PC等) | | | |
| | 第5回：講義 | 造血器腫瘍③、出血性疾患 | | 講義形式(配布資料・PC等) | | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 | 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | 講義はスライドを中心に行います。 あらかじめテキストを読んでから受講して頂くと、さらに理解しやすいと思います。 | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 | | | 医学書院 | | |
| | ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 | | | 医学書院 | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-------------|------|----------------|---|------------------|---------------|
| 科 目 名 | 病態生理治療論Ⅱ (歯・口腔) | 担 当 者 | 森 正次 | 年 次 | 1 | 単 位 時 間 | 4/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 解剖などの基礎をベースに、代表的な口腔外科疾患を学び、さらに慢性期病棟入院患者やがん治療にも欠かせない口腔ケア、口腔機能管理にも及び触れる。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な消化機能障害のうち口腔機能疾患について病態生理、症状、診断、治療までの医学的知識を学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1回：講義 口腔の基礎、口腔外科的疾患 | | | PC(スライド)及び配布資料 | | | |
| | 第2回：講義 口腔外科的疾患、口腔ケア(周術期) 口腔機能管理 | | | PC(スライド)及び配布資料 | | | |
| 成 績 評 価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 授業は主にPCを利用し、プリントを資料として配布します。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [15] 歯：口腔 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|-----|-------|---------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅱ (消化器系) | 担当者 | 石原 行雄 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 8/30時間 1単位 |
| 学修内容 | 消化器疾患及び看護について学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1・2回: 講義 食道、胃、十二指腸の疾患 | | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| | 第3・4回: 講義 腸疾患、腹膜の疾患、ヘルニア、大腸がん | | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| 成績評価 | ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・事前課題 ・留意点 受講生への要望: 質問をするようにして下さい。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|-------|---------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅱ (肝疾患・胆道系) | 担当者 | 景岡 正信 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 肝疾患・胆道系についての看護の基本を考えながら学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1～3回: 講義 肝・胆・膵の病態と治療のうち、肝疾患・胆道系 | | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 ・留意点 受講生への要望: 看護の基本を考えながら受講して下さい。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-------|---------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅱ (膵疾患) | 担当者 | 大島 昭彦 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 2/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 膵臓の解剖と生理、代表的膵疾患の病態と治療について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 膵臓の解剖と生理、炎症、腫瘍 | | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| 成 績 評 価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 受講生への要望: 看護とどう結びつくか考えながら受講して下さい。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-------------|-------|---------------|---|------------|----------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅱ (代謝・内分泌) | 担当者 | 坂本 益雄 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 10/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | ①代謝・内分泌の基礎知識 ②代謝・内分泌疾患(特に糖尿病を中心)について学ぶ。 ③個々の症例検討について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 | 代謝・内分泌の基礎知識 | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| | 第2回: 講義 | 下垂体・甲状腺疾患 | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| | 第3回: 講義 | 副甲状腺・副腎疾患 | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| | 第4回: 講義 | 糖尿病の基礎知識 | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| | 第5回: 講義 | 糖尿病・症例検討 | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| 成 績 評 価 | ・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・ 事前課題 ・ 留意点 White Boardを使った講義を少し入れます。配布したプリントへ要点を記入して下さい。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・ テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 ・ 必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|------------|-------|---------------------------|---|----------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅲ (脳・神経系) | 担当者 | 竹原 誠也 | 年次 | 1 | 時間 単位 | 6/30時間 1単位 |
| 学修内容 | ① 神経系の解剖・整理を理解する。 ② 中枢神経系の情報伝達を理解し、疾患の病態を理解する。 ③ 神経系疾患で、臨床上頻度の多いものの病態を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 | 神経系の解剖と生理 | | 講義形式 | | | |
| | 第2回: 講義 | 頭部外傷、脳血管障害 | | 講義形式 | | | |
| | 第3回: 講義 | 脳腫瘍他 | | 講義形式 | | | |
| | 国家試験レベルをもとに求められるべき看護師を目指す。 | | | 重要項目については繰り返して講義し、理解を深める。 | | | |
| 成績評価 | ・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・ 事前課題 テキスト(系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経)を予習しておくこと。 ・ 留意点 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・ テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 ・ 必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|---|-------|--------------------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅲ (自律神経) | 担当者 | 酒井 直樹 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 脳神経内科とはどんな症状かを認め、どんな疾患があるのか、代表的疾患を通して理解する。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 | 神経変性疾患Ⅰ (ALS、SCDなど) | | 座学。スライド(パワーポイント)を使った講義形式 | | | |
| | 第2回: 講義 | 神経変性疾患Ⅱ (パーキンソン病、認知症など) | | | | | |
| | 第3回: 講義 | その他(自己免疫性疾患、感染症など) | | | | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 | 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | 神経系の障害によりどのような症状が認められるのか? 神経内科の疾患にはどのようなものがあるのか?など、おおまかなイメージを作れるように。 知識の整理はテキストでしておくこと。 | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 | | | | 医学書院 | |
| | ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|--------------|-------|--------|---------------|------------------|----------------|
| 科 目 名 | 病態生理治療論Ⅲ (腎・泌尿器) | 担 当 者 | 池谷 直樹 | 年 次 | 1 | 単 位 時 間 | 10/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 腎・泌尿器系の解剖・生理と主要疾患について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | 方法 (形成評価等を含む) | | |
| | 第1回: 講義 | 腎・泌尿器系の解剖・生理 | | | 講義形式 | | |
| | 第2回: 講義 | 症状と検査 | | | 講義形式 | | |
| | 第3回: 講義 | CKD 慢性腎臓病 | | | 講義形式 | | |
| | 第4回: 講義 | AKI 急性腎障害 | | | 講義形式 | | |
| | 第5回: 講義 | 泌尿器科的疾患 | | | 講義形式 | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 ・留意点 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|-----|------|----|---|------------|-------------------------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅲ (運動器:骨・筋) | 担当者 | 徳山 周 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 8/30時間 1単位 |
| 学修内容 | ① 筋骨格系の運動機能・基本構造を理解する。 ② 神経の構造と機能を理解する。 ③ 関節運動の理論と実践を学ぶ。 ④ 骨折、脱臼の病態と対応を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) 講義形式 (配布資料等) |
| | 第1～4回:講義 ・筋骨格系の基本を理解する。 ・神経の構造と機能を理解する。 ・運動器における専門用語を理解し、使えるようになる。 ・骨折総論・各論 病態の理解とその対応を学ぶ。 ・整形外科、リハビリテーション学の内容理解 | | | | | | |
| 成績評価 | ・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・ 事前課題 ・ 留意点 受講生への要望: 積極的に授業に参加してほしいです。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・ テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器 医学書院 ・ 必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|---|-------|--------------|-------------|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅳ (乳房) | 担当者 | 平松 毅幸 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 4/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 乳腺の解剖・生理学的事項と乳腺疾患(特に、乳癌)について、その病態、診断、治療法について講師が説明します。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。この内、この单元では、乳腺の疾患(特に、乳癌)の発生機序、疫学、治療法を理解し、患者におよその説明が出来るようになる。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法(形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 | 乳腺の解剖・生理と乳腺の良性疾患 | | | 講義形式(配布資料等) | | |
| | 第2回: 講義 | 乳がんの診断と治療法 | | | 講義形式(配布資料等) | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 | 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | <ol style="list-style-type: none"> ① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。 ② 乳癌の治療法に関しては、全ての固形癌に当てはまるため、全身療法と局所療法に分けて、各々の意義をしっかりと理解してください。 ③ 病理学の「腫瘍・免疫」等で学んだことを思い出して、今回得た知識を、それに連結するように頭の中で整理してください。 ④ 乳癌患者のつらさを共感して、適切なケアが出来るようになるには、どうすべきか考えて、講義を受けてください。 | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 | | | 医学書院 | | |
| | ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 | | | 医学書院 | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|-------|---------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅳ (女性生殖器) | 担当者 | 黒田 健治 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | ① 女性生殖器系(乳房を除く)の解剖生理を理解する。 ② 女性生殖器(乳房を除く)の主な疾患の病態・症状・検査・治療について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 | 症状とその病態生理及び婦人科検査 | | | | | 講義形式 |
| | 第2回: 講義 | 女性ホルモン周期とその関連疾患 | | | | | 講義形式 |
| | 第3回: 講義 | 婦人科良性疾患 | | | | | 講義形式 |
| 成 績 評 価 | ・方法 | 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況、取り組み姿勢 | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 | | | | 医学書院 | |
| | ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 | | | | 医学書院 | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-------|---------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅳ (免疫系) | 担当者 | 金本 素子 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 免疫の基礎と膠原病、リウマチ疾患について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1～3回: 講義 前半: 免疫学総論 後半: 免疫学各論(疾患について) | | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| 成 績 評 価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 受講生への要望: この授業を通して、リウマチ疾患に対しておおまかなイメージと興味を持てるようになることを望みます。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|-----|-------|---------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅳ (感覚器系:眼) | 担当者 | 松永 寛美 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 4/30時間 1単位 |
| 学修内容 | 眼科疾患と治療について学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1、2回:講義 眼科疾患と治療について | | | 講義形式 | | | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 受講生への要望: 自主的に予習・復習することを望みます。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [13] 眼 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 イラスト眼科 渡邊郁緒 著 文光堂 眼科学 丸尾敏夫ほか 著 文光堂 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-------------------------------|-------|--------------|------|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅳ (耳鼻咽喉) | 担当者 | 影山 桃子 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 耳鼻咽喉科領域の検査および疾患の病態・治療法について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1回：講義 | 総論・耳疾患 | | 講義形式（配布資料等） | | | |
| | 第2回：講義 | 鼻疾患 | | 講義形式（配布資料等） | | | |
| | 第3回：講義 | 咽頭および咽喉頭疾患 まとめ | | 講義形式（配布資料等） | | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 | 筆記試験（配点は評価配分表を参照） | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | 図や写真を多く用いるので、目で見て授業を理解しましょう。 | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 | | | | 医学書院 | |
| | ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 | | | | 医学書院 | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|----------------|-------|--------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅳ (皮膚) | 担当者 | 矢田貝 剛 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 4/30時間 1単位 |
| 学修内容 | 皮膚のしくみと皮膚疾患について学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1回：講義 | 皮膚のしくみ、発疹学について | | 講義形式（配布資料等） | | | |
| | 第2回：講義 | 皮膚疾患について | | 講義形式（配布資料等） | | | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 受講生への要望： わからないところは質問して下さい。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|---------|-------|---------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅴ (手術療法) | 担当者 | 高林 直記 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学修内容 | ① 手術療法についての知識を得る。 ② 代表的な手術術式、創傷治癒や、術後の一般的な経過についての知識を得る。 ③ 術後合併症についての知識と理解を得る。 | | | | | | |
| 到達目標 | 人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 | 手術療法とは | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| | 第2回: 講義 | 手術療法の実際 | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| | 第3回: 講義 | 術後合併症 | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| 成績評価 | ・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・ 事前課題 ・ 留意点 受講生への要望: 単に手術というだけでなく、術前管理、手術、術後管理という一連の流れを学んで下さい。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・ テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ・ 必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|--|--------------------------|----|---|------------|---|
| 科目名 | 病態生理治療論V (リハビリテーション療法) | 担当者 | 秋山 弘太 遠藤 みき 伊東 絵里香 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 6/30時間 1単位 |
| 学修内容 | <p>【理学療法】 ① リハビリテーションとは何かを理解する。また、リハビリテーション看護活動が患者に与える影響を理解する。 ② 理学療法とは何か、評価・治療を通して経験する。</p> <p>【言語療法】 言語聴覚療法(リハビリテーション)について学ぶ。</p> <p>【作業療法】 作業療法について学ぶ。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) |
| | <p>【理学療法】</p> <p>第1回: 講義 リハビリテーション概論</p> <p>第2回: 講義・実習 理学療法 ① (評価・測定)</p> <p>第3回: 講義・実技 理学療法 ② (治療)</p> <p>【言語療法】</p> <p>① 嚥下障害と小児の言語障害のリハビリ</p> <p>② 聴覚障害・成人の言語障害・高次脳機能障害のリハビリ</p> <p>【作業療法】</p> <p>その人らしい生活の再構築を行うリハビリ</p> | | | | | | <p>講義形式(配布資料等) 講義と実技 講義と実技</p> <p>講義形式(配布資料等) 講義形式(配布資料等)</p> <p>講義形式</p> |
| 成績評価 | ・方法 | 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | <p>【理学療法】 第2・3回講義は実技中心にて、服装は動きやすい恰好で。</p> <p>【言語療法】 分からないことは積極的に質問して下さい。</p> | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・テキスト | 成人看護学 D. リハビリテーション患者の看護 [第2版] | | | | | 氏家幸子 廣川書店 |
| | ・必要物品 | <p>【理学療法】 動きやすい服装、上着(カーディガンなど)</p> <p>【作業療法】 カーディガン。</p> | | | | | |
| 参考文献 | <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|--------------|-------|---------------|-------------|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅴ (化学療法) | 担当者 | 飯塚 計江 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 4/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 「がん」と「がん化学療法」について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 | がんについての正しい知識 | | | 講義形式(配布資料等) | | |
| | 第2回: 講義 | がん化学療法の基礎知識 | | | 講義形式(配布資料等) | | |
| 成 績 評 価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院 ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|--|----------------|---------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論Ⅴ (放射線療法) | 担当者 | 五十嵐 達也 小杉 崇 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 4/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 放射線医学の基礎と臨床(画像診断、IVR、放射線治療)について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 | 放射線診断 IVRについて | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| | 第2回: 講義 | 放射線治療(がん治療) 放射線の単位 放射線と放射能 放射線被曝3原則 | | 講義形式(配布資料等) | | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 | 筆記試験(配点は評価配分表を参照) | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト | 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 | | | | | |
| | ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|---------------------------|-------|---------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 病態生理治療論V (心身医学) | 担当者 | 福島 一成 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 4/30時間 1単位 |
| 学修内容 | 心身医学の概論。心と体の関係を概観する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 第1回: 講義 | 心身医学概論 ① 心身医学とは | | 講義形式 | | | |
| | 第2回: 講義 | 心身医学概論 ② 心身症の発症機序と代表的な心身症 | | 講義形式 | | | |
| 成績評価 | ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・事前課題 ・留意点 授業は2回とも教室で行う。出欠も成績評価の参考とする。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・テキスト 使用しません。 ・必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|---------------------|-----|----------------------------|---|------------|---------------|
| 科目名 | 薬理学 | 担当者 | 林 豊 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 8/30時間 1単位 |
| 学修内容 | 医薬品の作用原理とその影響について基本的知識を習得し、臨床で必要な医薬品の安全な取り扱いについて学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 医薬品が作用する原理と作用に影響を与える要因を理解する。 医薬品を適正かつ安全に使用するための注意事項を理解する。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1回：講義 | 医薬品概論 | | パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する | | | |
| | 第2回：講義 | がん、痛みに使用する薬 他 | | パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する | | | |
| | 第3回：講義 | 救急救命時に使用する薬 他 | | パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する | | | |
| | 第4回：講義 | 特に安全管理が必要な医薬品について 他 | | パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する | | | |
| 成績評価 | ・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・ 事前課題 授業前にテキストの該当箇所を読んでおく。 ・ 留意点 授業後は講義内容を振り返り、重要な語句を整理しておく。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・ テキスト ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 ナーシング・サプリ イメージできる臨床薬理学 | | | メディカ出版 メディカ出版 | | | |
| 参考文献 | ・ 必要物品 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|--------------|-------|--------------|---|------------|----------------|
| 科目名 | 薬理学 | 担当者 | 木村 俊秀 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 22/30時間 1単位 |
| 学修内容 | 薬理学は、人体における薬物の効果に関する科学的研究を行う学問である。総論では、薬の作用や体内動態、からだと薬の反応関係など薬物療法の基礎知識を学ぶ。各論では、各疾患の治療に用いられる医薬品の薬効、体内動態、作用機序、副作用などについて学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 患者に投与する薬に関する十分な知識と服用の効果を正しく評価できるようになるために、本授業では、薬と生体の両面にわたる、分子レベル、細胞レベル、組織レベル、個体レベルの基礎的な知識をもとに、薬と受容体の反応様式および薬の作用機序についての知識を身につけ、薬がどのようにして疾患に効くのかを理解することを目標とする。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1－2回 | 総論（生体内情報伝達） | | | | | |
| | 第3－4回 | 各論（抗炎症薬） | | | | | |
| | 第5－6回 | 各論（呼吸器作用薬） | | | | | 講義と演習 |
| | 第7－8回 | 各論（代謝性疾患治療薬） | | | | | |
| | 第9－10回 | 各論（その他） | | | | | |
| | 第11回 | 試験 | | | | | 試験 |
| 成績評価 | ・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・事前課題 ・留意点 授業では、暗記ではなく理解が必要な薬の作用メカニズムを中心に解説する。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・テキスト ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 ナーシング・サプリ イメージできる臨床薬理学 メディカ出版 | | | | | | |
| 参考文献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|--------|----|---|----------|--|
| 科目名 | 看護学概論 | 担当者 | 亀澤 ますみ | 年次 | 1 | 時間 単位 | 30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | <p>看護学概論は、専門分野Ⅰ基礎看護学の土台に位置づけられ、看護学全体の基本的内容を学ぶ科目である。総合人間学での人間理解を土台に、看護の対象である人々を理解し、健康を入口に、その人らしく生きることを支援するという看護の本質を考える科目である。</p> <p>さらに専門分野Ⅱの専門領域や看護の統合分野への発展に向け、看護への関心を高め、看護を俯瞰して捉え看護学の豊かさや奥深さをイメージする機会としたい。</p> | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護全般の概念を捉え、看護の社会的位置づけや役割の重要性を認識する。 2. 看護を規定する主要概念について理解し、看護とは何か本質を追究する。 3. 看護の理論とは何かを学び、看護観をもつ必要性を理解する。 4. 看護の先人たちの足跡をたどり、その歴史と発展について学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回 「私の紹介」 ～一人ひとりを尊重しよう！！～ | | | | | | 一人ひとりが「自分」紹介をする。 |
| | 第2回 ガイダンス 専門職としての看護 看護師に求められる力と役割 | | | | | | ※課題 ミニレポート① |
| | 第3回 看護の使命、ケアリングの心を「マザー・テレサ」から学ぶ | | | | | | ※課題 ミニレポート② |
| | 第4回 保健・医療・福祉における看護の役割 | | | | | | |
| | 第5回 健康の促進と回復の支援 | | | | | | |
| | 第6回 ささまざまな看護理論 | | | | | | 特に印象に残った理論家を選び、もっとこのことを知りたいと思ったことを調べる。 ※課題③ |
| | 第7回 ナイチンゲールの看護理論・ロイの看護理論に触れる | | | | | | |
| | 第8回 看護の本質と広がりについて学ぶ | | | | | | |
| | 第9回 看護倫理について 人間について | | | | | | |
| | 第10回 看護の歴史 看護の過去～現代そして未来へ ①海外の看護 | | | | | | |
| | 第11回 看護の歴史 看護の過去～現代そして未来へ ②日本の看護 | | | | | | |
| | 第12回・13回・14回 | | | | | | |
| | ラベルワーク（14回目は発表） | | | | | | |
| | 第15回 筆記試験 まとめ | | | | | | ※授業の所感を記入し、毎回の授業の振り返りをしていきます。 |
| 成 績 評 価 | <p>・方法 ミニレポート10点①②(5点×2回) レポート10点③ ラベルワーク参加度5点 筆記試験75点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <p>・事前課題 授業前に「私の紹介」として、今までの経験、得意とすること、看護師になるという気持ちなどを、指定の用紙にまとめる。(1分間で発表できる内容で)</p> <p>・留意点 授業の資料、ノートなどをファイルなどにしっかりと整理してください。自分で追加学習をしていき、それもファイルに増やしていきましょう。</p> | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <p>・テキスト ①宮脇美保子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論, メヂカルフレンド社。 ②フロレンス・ナイチンゲール著 湯楨ます他訳:看護覚え書, 現代社。 ③東京医科大学看護専門学校編著:プチナース特別編集版 よくわかる看護者の倫理綱領, 照林社。</p> <p>・必要物品 授業の資料やノートはファイルなどでしっかりと整理してください。</p> | | | | | | |
| 参 考 文 献 | <ol style="list-style-type: none"> ①茂野香おる他著:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論, 医学書院。 ②小田正枝編集:ロイ適応看護理論の理解と実践, 医学書院。 ③川島みどり著:きらり看護, 医学書院。 ④笹原留似子著:おもかげ復元師の震災絵日記, ポプラ社。 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|--------|----|---|------------------|---|
| 科目名 | 看護方法 I 生活援助技術 環境の調整 | 担当者 | 西川 はるみ | 年次 | 1 | 単 位 時 間 | 16/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 人と環境は密接な関係にあり、環境の善し悪しは健康の保持増進に大きく影響する。患者にとっての病室は、治療・看護を受ける場であるとともに日常生活の場となる。この単元では、人間にとっての環境の意義を考えるとともに、療養生活にある患者の環境とはどのようなものであるかを考え、看護者が行う環境の調整とはどのようにしていくことなのかを学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての環境の意義を理解する。 2. 療養者にとって快適な療養環境を考える。 3. ベッドメイキングの原則を理解し、快適なベッドをつくる。 4. 安全・安楽を考慮した臥床患者のシーツ交換を実施する。 5. 看護者が環境を調整する意義について理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 1. 人間にとっての環境の意義と療養環境 | | | | | | 講義 |
| | 2. ベッド周りの環境を考える | | | | | | 校内実習(ABグループ合同) グループワーク |
| | 3. 療養環境のアセスメント | | | | | | 講義 |
| | 4. ベッドメイキング | | | | | | 校内実習(ABグループに分かれる) |
| | 5. ベッドメイキング | | | | | | 校内実習(ABグループに分かれる) 事前課題: ベッドメイキングの手順とポイントをまとめる |
| | 6. 臥床患者のシーツ交換 | | | | | | 校内実習(ABグループに分かれる) |
| | 7. 臥床患者のシーツ交換 | | | | | | 校内実習(ABグループに分かれる) 事前課題: 臥床患者のベッドメイキングの手順とポイントをまとめる |
| | 8. 療養環境の整備「看護者が環境を調整する意義」 | | | | | | 校内実習(ABグループ合同)グループワーク |
| 成 績 評 価 | ・方法 筆記試験 25点 実技試験 25点 本科目は50点満点となります。 ※ 看護方法 I「活動と休息」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 校内実習前に、実施する看護技術についての課題があります。 校内実習前は必ず実施する技術の動画を確認しましょう。 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 校内実習は、事前課題を活用して実施します。 校内実習後には、主体的に練習をしましょう。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術，メディックメディア。 ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | | |
|-----------|---|---------------------------|--------|----|---|------------|----------------|----------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅰ 生活援助技術「活動と休息」 | 担当者 | 小林 有希子 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 14/30時間 1単位 | |
| 学修内容 | 人間は成長と共に生活が自立する。自らの生活や欲求に応じて、自然に体を動かし活動している。活動は意識的にも無意識的にも行われるが、同様に休養や睡眠も必要となる。しかし、疾病や治療により活動も睡眠も様々な影響を受ける。そして、過度の安静は悪影響にもなる。本單元では活動と休息を必要に応じてバランスよく安全に提供する援助方法を学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・休息の基礎的概念を理解する。 2. 姿勢の保持、体位変換、移動の援助の目的と援助方法を理解する。 3. 姿勢の保持、体位変換、移動の基礎的技術を実施する。 4. 活動の減少や不動状態による危険や合併症を理解する。 5. 睡眠の基礎知識とその援助について理解する。 | | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） | |
| | 第1回 | 活動休息の意義と基礎知識 | | | | | | 講義 |
| | 第2回 | ボディメカニクスと安楽な体位の保持と変換 | | | | | | 講義 |
| | 第3回 | 安楽な体位の保持と体位変換(A/B) | | | | | | 校内実習(A/Bに分かれる) |
| | 第4回 | 移乗と移動、移送の基礎知識 | | | | | | 講義 |
| | 第5回 | 移乗と移動、移送の援助(A/B) | | | | | | 校内実習(A/Bに分かれる) |
| | 第6回 | 講義 不動状態の影響 睡眠とは、睡眠障害とその援助 | | | | | | 講義 |
| | 第7回 | 試験・解説 | | | | | | |
| 成績評価 | ・方法 筆記試験 50点 「環境の調整」と合わせて100点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・事前課題 毎回の校内実習前に、実施する看護技術に関して事前課題があります。 ・留意点 活動と休息は患者さんは勿論、看護する者にとっても自らの安全を守る重要な基礎です。形態機能学の骨格筋の仕組みなども踏まえて学びましょう。 | | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・テキスト ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol.1 基礎看護技術，メディックメディア。 ・織田弘美ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕 運動器，医学書院。 ・必要物品 校内実習毎お知らせします。 | | | | | | | |
| 参考文献 | ・竹尾恵子監修：看護技術プラクティス 第3版，学研メディカル秀潤社。 ・任 和子、秋山智弥編集：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術，医学書院。 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-------|----|---|----------|-----------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅱ 生活援助技術「食事の援助」 | 担当者 | 寺岡 智子 | 年次 | 1 | 時間 単位 | 14/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 人間は生きて活動していくために必要なエネルギー源を食物として食べ、消化・吸収して体内に取り入れるという過程を経ている(この過程を「栄養」という)。本科目では、人間にとって食べることの意義を理解し、栄養に関する身体的側面の観察の視点、療養における食事とはどのようなものかについて学ぶ。そして、栄養が満たされないことによって起こる身体的・心理的問題、およびその問題に対する基本的看護援助について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとって食べることの意義を、生理的、心理的、社会的側面から理解する。 2. 食事の援助に必要な栄養の基礎知識、食事摂取の機序を理解する。 3. 対象の栄養状態および食欲、摂取能力のアセスメントの方法を理解する 4. 栄養のニーズを満たすために必要な看護援助を学び、基本的な食事援助ができる。 5. 食物を経口摂取できない状態にある対象の栄養摂取の必要性と方法を学ぶ。 6. 非経口の栄養摂取法である経鼻経管栄養法の具体的な方法と観察を学ぶと共に、そのような方法で栄養摂取をする対象の心理的苦痛を理解できる。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) |
| | 第1回: 食事の意義と基礎知識 | | | | | | 講義 |
| | 第2回: 栄養と食行動に関するアセスメント | | | | | | 講義 |
| | 第3回: 基本的な食事援助と摂取・嚥下訓練 | | | | | | 講義 |
| | 第4回: 基本的な食事援助 | | | | | | 校内実習(A・Bグループごと) |
| | 第5回: 経口摂取ができない人への援助 | | | | | | 講義 |
| | 第6、7回: 経鼻経管栄養法 | | | | | | 校内実習(A・Bグループごと) |
| 成 績 評 価 | <p>・方法 筆記試験 50点 ※看護方法Ⅱ「排泄の援助」と合わせて100点満点になります。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <p>・事前課題 形態機能学Ⅲ「咀嚼・嚥下のしくみ」での学びを復習しておきましょう。</p> <p>・留意点 校内実習前に実施する看護技術に関して事前課題があります。校内実習はその事前課題を活用しながら行ないますので、しっかりと取り組んでから授業に臨みましょう。</p> | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任 和子他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ、医学書院。 ・藤本真記子他監修: 看護がみえる Vol1、Vol2臨床看護技術、メディックメディア。 ・江口正信著: 検査値早わかりガイド、サイオ出版。 <p>・校内実習ごと、必要物品をお知らせします。</p> | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | | |
|-----------|---|---------------|-------|----|---|------------|----------------|-----------------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅱ 生活援助技術「排泄の援助」 | 担当者 | 大石 祐子 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 16/30時間 1単位 | |
| 学修内容 | 人間は、水や食物などを身体に取り込み、生命維持に必要なエネルギーを産生する一方その過程で生成される不要な代謝産物を排出する(この過程を「排泄」という)。本科目では、人間にとって生理的欲求の一つである排泄の意義とそのメカニズムを理解し、日常生活行動の一つである排泄行動を意識しながら排泄に関する観察の視点について考えていく。また、排泄に関し看護者が行う援助方法、排泄困難な状況における援助方法及び看護について学んでいく。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間の健康生活における排泄の生理的・心理的・社会的意義を理解する。 (2) 基礎的知識として、排泄の機序及び生理的機能を理解する。 (3) 排泄援助に伴う患者の心理・苦痛を理解する。 (4) 排泄障害の様々な段階を知り、適切な援助方法を理解する。 (5) 排泄行動に障害がある人に対する基本的援助技術を理解する。 (6) 安全・安楽を考慮しながら、基本的な床上排泄の援助ができる。 (7) 浣腸・導尿の目的、原理・原則が理解できる。 (8) モデルに対し原理・原則に従って、浣腸及び一時的導尿の実施ができる。 | | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) | |
| | 第1回 | 排泄の意義と基礎知識 | | | | | | 講義 |
| | 第2回 | 排泄援助の基礎知識 | | | | | | 講義・グループワーク |
| | 第3回 | 床上排泄・排便困難時の看護 | | | | | | 講義 |
| | 第4回 | 浣腸の実施と床上排泄の援助 | | | | | | 校内実習 (A・Bチームに分かれて) |
| | 第5回 | 排尿困難時の看護 | | | | | | 講義 |
| | 第6・7回 | 校内実習 一時的導尿の実施 | | | | | | 校内実習 (A・Bチームに分かれて) |
| | 第8回 | 試験・解説 | | | | | | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 ・筆記試験 50点 ・授業の取り組み姿勢 *看護方法Ⅱ「食事の援助」と合わせて100点満点になります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・形態機能学Ⅲ「尿の生成するしくみ」での学びを復習しておいてください。 ・留意点 ・校内実習を行う看護技術に関しては事前課題があります。校内実習は事前課題を活用しながら行います。必ず事前課題にしっかり取り組んでから授業に臨んでください。 ・事前学習・復習をしっかり行い、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨んでください。 | | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真紀子他監修：看護がみえる vol.1 臨床看護技術 Vol1 メデックメディア。 ・近藤一郎他監修：看護がみえる vol.2 臨床看護技術 Vol2 メデックメディア。 | | | | | | | |
| 参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 深井喜代子編 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱメヂカルフレンド社 ・ 坂井建夫他著 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院 ・ 田中越朗 著 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進② 医学書院 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-------|----|---|------------|--------------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅲ 生活援助技術 清潔・衣生活の援助 | 担当者 | 後藤 治美 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 20/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 人にとって、「清潔を保つ」「身だしなみを整える」ことの意義を学ぶ。さらに、体を守る機能の一つである皮膚・粘膜に働きかけ、防御機構を促進するための看護援助の具体的な方法・技術を学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | ① 人の清潔保持行動の重要性を理解する。 ② 清潔の援助の効果と全身への影響を理解する。 ③ 清潔の援助を実施する上での原則・留意点を理解する。 ④ 身体各部の構造や機能に応じた援助の方法を理解する。 ⑤ 患者および看護師にとって安全で安楽な清潔を保持するための看護援助技術を身につける。 (口腔ケア・足浴・全身清拭・寝衣交換・洗髪) | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) |
| | 1. 人にとっての清潔を保つことの意義 | | | | | | 講義 |
| | 2. 口腔の清潔を保つ目的と援助方法 | | | | | | 講義 |
| | 3. 口腔ケアの実際 | | | | | | 校内実習(A・Bグループに分かれる) |
| | 4. 部分浴の目的と援助方法 | | | | | | 講義 |
| | 5. 足浴の実際 | | | | | | 校内実習(A・Bグループに分かれる) |
| | 6. 全身清拭・寝衣交換の目的と援助方法 | | | | | | 講義 |
| | 7. 全身清拭・寝衣交換の実際 | | | | | | 校内実習(A・Bグループに分かれる) |
| | 8. 全身清拭・寝衣交換の実際 | | | | | | 校内実習(A・Bグループに分かれる) |
| | 9. 部分浴(洗髪)の目的と援助 | | | | | | 講義 |
| | 10. 洗髪の実際 | | | | | | 校内実習(A・Bグループに分かれる) |
| 成 績 評 価 | ・方法 筆記試験 35点 実技試験 35点 本科目は70点満点となります。 ※ 本科目と「コミュニケーション」を併せて看護方法Ⅲの評価点(100点満点)となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 各校内実習前に、実施する援助技術についての手順・留意点を指定の用紙にまとめる。(後日提出する) ・留意点 ① 校内実習前の事前学習を忘れた場合は、校内実習に参加できません。 ② 学生同士ペアになって看護技術を練習します。常々相手の立場に立った行動に心がけてください。 ③ 校内実習では看護者としての学びだけでなく、患者体験も大切にしてください。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術, 医学書院. ・藤本真記子ら監修: 看護がみえる vol. 1 基礎看護技術, メディックメディア. ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|-----|-------|----|---|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅲ 対人関係の援助技術 「コミュニケーション」 | 担当者 | 安達 百合 | 年次 | 1 | 時間 単位 | 10/30時間 /1単位 |
| 学修内容 | 人間は社会的存在として互いの気持ちを伝え合い、理解しあって生きようとしている。その情報交換、意思疎通の行われる過程がコミュニケーションであり、また人間関係を成立させる要素として重要である。医療の場では健康障害という特殊な条件が重なり、その困難さを増すことが多い。その中で看護師は、患者や家族に近い存在として、直接的・間接的なかかわりを持ちながら快適な療養生活が行われるように配慮する役割を持つ。そのため、コミュニケーションは看護における中心的技術として必要不可欠である。この単元ではコミュニケーションの基本的概念をもとに、看護場面におけるコミュニケーションのあり方を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1、普段のコミュニケーションを想起し、コミュニケーションの意義・種類・構成要素・過程・影響などについて理解する。 2、社会生活を営む人間にとっての意義と大切さを理解する。 3、看護の原点・出発点となるコミュニケーションの重要性を理解する。 4、患者・看護師間の信頼関係を深めていくために必要な原則や留意点を理解する。 5、看護場面におけるプロセスレコード活用の意義を知り、振り返りを体験する。 6、講義や実習をもとに自己のコミュニケーションの傾向を知る。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回：コミュニケーションの意義と人間関係への影響を考える | | | | | | 講義 |
| | 第2回：看護場面におけるコミュニケーションの重要性を考える | | | | | | 講義 |
| | 第3回：プロセスレコードの活用と意義を理解する | | | | | | |
| | 第4回：効果的なコミュニケーションの実際 | | | | | | |
| | 第5回：試験・まとめ | | | | | | 基礎見学実習終了後、意見交換 毎回の講義では「所感」を提出する。 |
| 成績評価 | <p>・方法 ・筆記試験(30%:担当:安達)</p> <p>・基準 ・全体の総合計100%に対し、本校の規定に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・事前課題 特にありません</p> <p>・留意点 ここで学ぶ、コミュニケーションやプロセスレコードによる振り返りは、今後の実習の中で活用するものです。また、日常生活であっても自己のコミュニケーションを「振り返る力」相手の意図を汲み取る「感じる力」そして自分の気持ちを「伝える力」は看護実践力を支える力になります。コミュニケーションの奥深さを感じ、考えながら取り組ましましょう。</p> | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト ・有田清子他 系統基礎看護講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・アーネスティン・ウィーデンバック コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵 日本看護協会出版</p> <p>・必要物品</p> | | | | | | |
| 参考文献 | <p>・系統看護学講座 人間関係論 医学書院</p> <p>・長谷川雅美他 編 「自己理解・他者理解を深めるコミュニケーションの上手な方法」 日総研</p> <p>・福沢周亮、桜井俊子 編 「看護コミュニケーション」教育出版</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|---------------|-----------------|----|---|------------|-----------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅳ 診療に伴う援助技術 「フィジカルアセスメント」 | 担当者 | 孕石 美絵 杉 渕 美里 | 年次 | 1 | 間 単 時 位 | 30時間 1単位 |
| 学修内容 | 患者さんの症状や徴候から情報を収集し、必要に応じて触診や聴診を行い、患者さんの状態を判断するのがフィジカルアセスメントである。この単元では、看護していく上で身につけるべきフィジカルイグザミネーションと、バイタルサインの基本的技術を習得する。また全身状態を系統的に診ていくことで、対象に起こっている身体状態を把握し、その把握した情報の意味(正常、異常)を判断するために必要な基礎知識と技術を学んでいく。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1)看護に必要なフィジカルアセスメント、バイタルサインの意義・必要性が理解できる。 2)系統別のフィジカルイグザミネーションの基本技術を実施できる。 3)フィジカルイグザミネーションを通して、身体の構造、機能の正常を意識できる。 4)バイタルサイン測定を正確に行う意義、原理原則を踏まえて正確に測定できる。 5)フィジカルイグザミネーション、バイタルサイン測定で得られた情報をもとに、アセスメントする必要性が理解できる。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法(形成評価等を含む) |
| | 第1回 フィジカルアセスメントの意義と必要性① (問診・視診・触診・打診・聴診)・腹部のアセスメント | | | | | | ・講義 |
| | 第2回 バイタルサイン測定の意義と必要性 体温の恒常性とアセスメント | | | | | | ・講義 |
| | 第3回 循環器系①(脈拍)と呼吸器系①(呼吸)のアセスメント | | | | | | ・講義+実技 |
| | 第4回 循環器系のアセスメント②(血圧) | | | | | | ・講義+実技 |
| | 第5回 呼吸器系のアセスメント②(呼吸音) | | | | | | ・講義+校内実習 |
| | 第6回 循環器系のアセスメント③(心音) | | | | | | ・講義+校内実習 |
| | 第7・8回 状態の観察とバイタルサイン測定(体温・呼吸・脈拍・血圧)①② | | | | | | ・校内実習(A・Bに分かれる) |
| | 第9回 系統的な観察とアセスメント [1~9回担当:孕石] | | | | | | ・講義+校内実習 |
| | 第10回 筋・骨格系のアセスメント | | | | | | ・講義 |
| | 第11・12回 脳・神経系のアセスメント①② | | | | | | ・講義 |
| | 第13・14回 筋・骨格系のアセスメント・脳・神経系のアセスメント | | | | | | ・校内実習(A・Bに分かれる) |
| | 第15回 試験 [孕石] | [10~14回担当:杉渕] | | | | | |
| 成績評価 | ・方法 筆記試験 レポート 実技試験 筆記試験80点(孕石50点 杉渕30点) 実技試験20点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・事前課題: テキスト2冊の授業内容の部分を読み、動画を見てから臨んで下さい。事前課題で穴埋めのレポートがある場合は、授業までに記入して臨んで下さい。 ・留意点 臨地実習で必ず行う技術であり、技術試験を行います。技術は何度も練習することで身につけていきます。学生同士や家族に協力をしてもらい、積極的に自己練習していきましょう。普段の日常の中でも自分の身体に興味を持ち、構造や機能についてもぜひ意識してみてください。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・任 和子他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院 ・熊谷たまき他監修: 看護がみえるvol. 3 フィジカルアセスメント 第1版, メテックメディア. ・高木永子監修: New看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. ・必要物品: 実技はフェイスシールドを準備して下さい。 (自分の聴診器・血圧計・秒針付き時計、学校の腕枕・体温計・打鍵器・瞳孔計・ペンライトなど、その都度指定します。) | | | | | | |
| 参考文献 | ・山内豊明著: フィジカルアセスメントガイドブック, 医学書院. | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | | |
|-----------|---|--------------------|-------|----|---|----------|----------------|---------------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅴ 診療に伴う援助技術 「与薬」 | 担当者 | 大石 祐子 | 年次 | 1 | 時単 間位 | 18/30時間 1単位 | |
| 学修内容 | この單元では、診療(診療及び治療)の中でも、薬物療法を実施する際に必要となる基礎知識と看護師の役割を学ぶ。治療法の一つである薬物治療は、医療の中で大きな役割を占めており、薬物の管理・与薬の実施・治療環境を整えるなど看護師が果たす役割は非常に大きい。校内実習では薬物療法の中でも特に看護師が実施する機会の多い「経口与薬」「筋肉内注射」について基本となる知識、確実な技術を学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> ① 薬物療法における看護師の役割を理解する。 ② 与薬に関する基礎知識を理解する。 ③ 与薬の基本的な方法と看護の要点を理解する。 ④ 患者の安全・安楽に配慮した「経口与薬」「輸液セットの取り扱い」「注射の準備」「筋肉内注射」の技術を根拠に基づいて実施できる。 | | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) | |
| | 第1回 | 診療における看護 | | | | | | 講義 |
| | 第2回 | 与薬における看護 | | | | | | 講義 |
| | 第3回 | 経口与薬法 | | | | | | 校内実習 (A・Bグループ毎) |
| | 第4回 | 注射・輸血の基礎知識 | | | | | | 講義 |
| | 第5回 | 輸液の基礎知識・輸液セットの取り扱い | | | | | | 講義・校内実習 (A・Bグループ合同) |
| | 第6回 | 注射の準備・筋肉内注射 | | | | | | 講義 |
| | 第7回 | 注射の準備 | | | | | | 校内実習 (A・Bグループ毎) |
| | 第8・9回 | 筋肉内注射 | | | | | | 校内実習 (A・Bグループ毎) |
| | ※校内実習後に所感を提出してもらいます。 | | | | | | | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験40点 出席状況・取り組み姿勢5点 事前課題への取り組み15点、合計60点 「検査における看護」とあわせて100点となる。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 校内演習を安全に行うために必要な知識、技術について学習をしてもらいます。その都度お知らせします。提出(評価対象)あり。 ・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・侵襲を伴う看護技術になります。責任ある判断と倫理的な実践が求められます。根拠に基づいた技術を実施できるように真剣に取り組みましょう。 ・「注射の準備」「筋肉内注射」の校内実習時は、事故防止に心がけ、落ち着いて慎重に行動してください。 | | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. 佐藤久美他監修：看護技術がみえるvol.1 vol.2 臨床看護技術 第1版, メディックメディア. ・必要物品 校内演習の内容によって事前準備の必要物品、服装が異なります。事前にお知らせします。 | | | | | | | |
| 参考文献 | 坂井陽子他:学ぶ・試す・調べる看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版社株式会社. 大岡良枝他:NEWなぜ?がわかる看護技術LESSON, Gakken. 坂本すが他監修:ビジュアル 臨床看護技術ガイド, 照林社. | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|-----|-------|----|---|-----------------------|------------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅴ 診療に伴う援助技術 「検査における看護」 | 担当者 | 朝比奈結華 | 年次 | 1 | 単 位 間 時 位 | 12/30時間 1単位 |
| 学修内容 | この単元では、診療時の看護として『検査における看護』について学ぶ。検査の目的・種類について学習し、また、検査時の看護が単に診療の補助業務ではなく、検査を受ける人への看護であることを理解し、看護の役割を学ぶ。多くの検査の中から身近な人が受けた検査の具体的方法や看護について調べ、検査における看護の役割を学ぶ。校内実習では、身体への侵襲がある血糖測定や静脈採血を体験し、方法・技術を学ぶと共に、患者への身体的・精神的苦痛への配慮を学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1)検査の目的・種類・看護の役割を理解する 2)臨床での主要かつ基本的な検査について、自ら調べることで知り、学びを共有する 3)採血における目的・手順・手技・注意点について理解し実施できる 4)検査を受ける人の身体的・精神的な苦痛を考え、配慮の必要性を理解できる | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回： 検査の目的・種類・看護の役割、注意事項、事故防止 | | | | | | 講義 |
| | 第2回： 血液検査について | | | | | | 講義 |
| | 第3,4回： モデル人形による採血 | | | | | | 校内実習（A,Bグループ毎ごと） |
| | 第5回： 血糖管理 | | | | | | 校内実習（A,Bグループ合同） |
| | 第6回： まとめ・試験 | | | | | | |
| 成績評価 | ・方法 筆記試験30% 夏季休暇中のレポート5% 取り組み姿勢 5% *「与薬」と合計して100% ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・事前課題 校内実習前に、実施する援助技術についての手順・留意点を指定の用紙にまとめ、校内実習前後に提出。 ・留意点 ・レポートは夏季休暇中の課題となります。文献を用いて検査における看護について考えよう。 ・根拠をもとに、正しい手順を理解した上で、実習に取り組んで下さい。 ・採血の校内実習時は、事故予防に心がけ、落ち着いて慎重に行動して下さい。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・テキスト 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. 佐藤久美他監修：看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術 第1版, メディックメディア. 江口正信編著：検査値早わかりガイド, 医学書院. ・必要物品 | | | | | | |
| 参考文献 | 村上美好監修：写真でわかる基礎看護技術①, インターメディカ. 玉木ミヨ子編集：看護学生必修シリーズ“なぜ？どうして？”がわかる基礎看護技術, 照林社. | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|---------|----|---|------------------|--|
| 科目名 | 看護方法Ⅵ 看護活動に共通の技術 記録・報告、教育的関わり | 担当者 | 杉 渕 美 里 | 年次 | 1 | 単 位 時 間 | 10 / 30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 看護はあらゆる年代の個人・家族、集団、地域社会に住む人が対象となる。対象が本来持つ自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその最期まで、その人らしく生を全うすることができるよう身体的・精神的・社会的に支援することを目的としている。健康の維持と向上に向けて、その人の希望や困難さを理解しようと関わり、その人の学習の価値を尊重できるような看護活動が求められている。この単元では、演習を通して看護の学習支援技術を学び、看護師の役割について理解する。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における学習支援の意義と看護師の役割を理解する。 2. 学習支援計画書を立案し、提案集を作成する。 3. 看護における記録・報告の重要性を理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における記録 2. 看護における報告 3. 看護における学習支援の意義と看護師の役割 4. 学習支援計画書の必要性和と計画立案 5. 学習支援の教材作成の準備 | | | | | | 講義 講義 講義 講義・個人ワーク 講義・グループ内発表 |
| 成 績 評 価 | ・方法 ・筆記試験 15点 ・学習支援の課題15点 ・授業の取り組み姿勢 ※ 看護方法Ⅵ「感染予防の技術」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 ・留意点 「身近で大切な人」を対象とし、その人がより健康な生活を送れるように「大切な人の健康を守る」ための提案集を作成します。グループ内発表でのアドバイスをもとに修正し、冬季休暇中の課題として大切な人へ健康支援を行ってまいります。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 ・必要物品 20Pくらいのポケット式クリアファイル | | | | | | |
| 参 考 文 献 | ・鈴木敏恵著：課題解決力と論理的思考力がみにつく プロジェクト学習の基本と技法 教育出版 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|---------------|----|---|------------------|---|
| 科目名 | 看護方法Ⅵ 看護活動に共通の技術 「感染予防の技術」 | 担当者 | 安達 百合 小島 太 | 年次 | 1 | 単 位 時 間 | 20/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 感染に対する基礎知識を微生物学と免疫学と結びつけながら、病院内で起きている感染を予防するために行われている対策、および感染予防の必要な知識・技術を学ぶ。そして、患者の安全を守ると共に医療者自身の安全を守る重要性について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 1)看護において安全の意義を理解し、安全を守るための基礎知識と技術を学ぶ。 2)病院で行われている感染予防のための基礎知識・技術を学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回 感染防止の基礎知識(安達) | | | | | | 講義 |
| | 第2回 感染防止対策の基本(小島) | | | | | | 講義 |
| | 第3回 状況に応じた感染予防対策 手指の清潔を考える(安達) | | | | | | グループワーク・校内実習(手洗い) |
| | 第4回 手指消毒・滅菌手袋の装着(安達) | | | | | | 校内実習 (ABグループに分かれる) 事前課題:手指衛生と滅菌手袋装着脱について |
| | 第5回 ガウンテクニック(安達) | | | | | | 校内実習 (ABグループ合同) 事前課題:個人防護用具着脱方法について |
| | 第6回 滅菌用品の取り扱い(安達) | | | | | | 講義 |
| | 第7回 創傷の治癒過程 創傷管理(安達) | | | | | | 講義 |
| | 第8・9回 無菌操作(安達) | | | | | | 校内実習 (ABグループに分かれる) 指定 事前課題:無菌操作について |
| | ※無菌操作技術試験 | | | | | | 第4・8・9回目の看護技術の内容を技術 試験として実施する |
| | 第10回 学科試験 | | | | | | 試験後45分間講義 |
| 成 績 評 価 | ・方法: 筆記試験(35点)実技試験(35点 ただし試験は100点だが35点換算する) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 夏季休暇に事前課題(感染予防の基礎知識)あり。校内実習前は事前課題あり。 ・留意点 感染予防の技術は医療施設や家庭でのあらゆる場面で必要な知識、技術である。医療者となる者として清潔、汚染の判断ができるように考えながら授業に臨んでください。 実技試験があります。根拠を踏まえて練習を重ねて試験に臨んでください。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト 任和子他著: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真紀子他監修: 看護がみえる vol.1 基礎看護技術第1版 メディックメディア 佐藤久美他監修: 看護がみえる vol.2 臨床看護技術第1版 メディックメディア ・必要物品 校内実習前に説明するため、各自で事前準備を行う。 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 南嶋洋一他: 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 医学書院 坂井建雄他: 解剖生理学 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 医学書院 日本看護協会教育委員会監修: 看護場面における感染防止 インターメディア | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|---------|----|---|------------------|--------------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅶ 生命活動を支える技術 呼吸・循環を整える技術 | 担当者 | 杉 淵 美 里 | 年次 | 1 | 単 位 時 間 | 20/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 人は、生命維持に重要な役割を担う呼吸と循環によって、身体内の細胞が正常に働き続けるために必要な酸素を取り込み、二酸化炭素や老廃物を排泄する。これらの機能が正常に果たされるためには、内部環境の恒常性が保たれていなければならない。この单元では、呼吸・循環が障害されることによって起こる問題とその看護について学ぶ。また、内部環境の恒常性維持に関わる体温調節機能が障害されることによって起こる問題とその看護について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとって呼吸すること、循環することの意義を理解する。 2. 呼吸・循環が維持されないことによって起こる症状を理解し、呼吸が脅かされることの苦痛・心理を理解する。 3. 呼吸を安楽にする看護技術について理解する。 4. 人間の恒常性維持に関わる体温調節機能の果たす役割を理解する。 5. 体温調節の適応状態を調節するための罨法の方法およびその根拠を理解する。 6. 科学的根拠に基づき、安全・安楽を考えた罨法を習得する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 1. 呼吸困難のある患者への看護 | | | | | | 講義 |
| | 2. 吸入療法とその看護 | | | | | | 講義 |
| | 3. 酸素吸入 | | | | | | 校内実習(A・Bグループに分かれる) |
| | 4. 薬液吸入 | | | | | | 校内実習(A・Bグループに分かれる) |
| | 5. 吸引療法とその看護 | | | | | | 講義 |
| | 6. 吸引 | | | | | | 校内実習(A・Bグループに分かれる) |
| | 7. 体温調節不応の患者への看護 | | | | | | 講義 |
| | 8. 温罨法 | | | | | | 校内実習(A・Bグループに分かれる) |
| | 9. 冷罨法 | | | | | | 校内実習(A・Bグループに分かれる) |
| | 10. 試験 | | | | | | 講義 |
| 成 績 評 価 | ・方法 筆記試験 50点 課題への取り組み 10点 ※ 看護方法Ⅶ「救命・救急看護」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 詳細は第1回の講義の時に説明します。 ・留意点 ・毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 ・校内実習前に事前課題があります。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト ・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術，メディックメディア。 ・佐藤久美他監修：看護がみえる vol. 2 臨床看護技術，メディックメディア。 ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-------------------------|----|---|------------------|--------------------------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅶ 生命活動を支える技術 「救命・救急看護」 | 担当者 | 實石 光歩 救急救命士 杉渕 美里 | 年次 | 1 | 単 位 時 間 | 10/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | この單元では、救命・救急看護における看護技術について学ぶ。救急処置は、患者の急変時に行われる処置であり、特に心肺機能停止状態にある対象への救命処置として、初期対応、一時救命処置(BLS)と二次救命処置(ACLS)、止血法について学ぶ。BLSは実際に行えるよう習得を目指す。また、人間の最期である死を迎えるとき、患者と家族がよりよい看取りが行えるための援助方法について学んでいく。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 1) 救急看護の役割と対象の特性について理解する。 2) 急変と心肺機能停止の特徴と緊急対応の必要性について理解する。 3) 一時救命処置の内容と方法を理解し、実施することができる。 4) 二次救命処置の内容と方法を理解する。 5) 止血法の種類と方法を理解し、実施することができる。 6) 死の看取りにおける看護の役割と援助方法を理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) |
| | 第1・2回 普通救命講習を受講する(消防署) | | | | | | 消防署にて受講する |
| | 第3・4回 初期対応、1次救命処置・2次救命処置についてと止血法について (救急カートの説明を含む) 救急患者のアセスメントについて(個人ワーク/グループワーク 発表) (實石) | | | | | | 講義・実技 グループワーク発表内容を評価とする |
| | 第5回 看取りの看護(杉渕) | | | | | | 講義 所感あり(評価に含まない) |
| 成 績 評 価 | ・ 方法 : 普通救命講習受講証取得(10%)・筆記試験(20%)・グループワーク発表(10%) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・ 事前課題 第3・4回の講義前までに第1実習室の救急カートとその中の物品の確認を各自で行い講義に臨んでください。 ・ 留意点 基本的な救命処置は繰り返し練習することが求められるため、第1・2回の普通救命講習受講後はイメージトレーニングをしていきましょう。万一、普通救命講習は欠席した場合は必ず年度内に受講してください。 第5回では人の死に携わる者として、皆さん一人ひとりが死について考える機会としていきましょう。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・ テキスト 任和子他著: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 佐藤久美他監修: 看護がみえるvol.2 臨床看護技術, メディックメディア ・ 必要物品 第3・4回のグループワークでは電子辞書、三角巾の準備をする。 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | キューブラ=ロス: 死ぬ瞬間, 読売新聞社 竹尾恵子監修: 看護技術プラクティス第2版, 学研 アルフォンス・デーケン: よく生きよく笑いそき死と出会う, 新潮社 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|--------|----|---|------------------|--------------|
| 科目名 | 看護方法Ⅷ 看護過程展開の技術 | 担当者 | 西川 はるみ | 年次 | 1 | 単 位 時 間 | 30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 「看護過程展開の技術」は、一言でいえば看護の目標を達成するための方法論の一つである。つまり、看護の対象となるその人にとって必要な援助を見極め、その人らしく生活できるよう支援していくための方法である。看護過程は、看護の対象となる人々と看護実践者との対人関係の中で成立し、展開するものである。すなわち、看護過程は、対人的援助関係の過程を基盤として、看護の目標を達成するための科学的な問題解決法を応用した思考過程の道筋である。看護過程を展開していくためには、問題解決思考、クリティカルシンキング、倫理的配慮、リフレクションなどを基盤として、既習の知識を活用することが必要となる。この単元では、演習を通して基本的な看護過程展開の技術を学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。 2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、倫理的配慮など看護過程の基盤となる考え方を理解する。 3. 事例を使って、看護過程展開に取り組み、看護の思考方法を身につける。 4. 看護過程の各段階であるアセスメント(全体像・関連図・分析)、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価の基本的な考え方とその実際を学ぶ。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 1. 看護過程の概要、看護過程の基盤となる考え方 | | | | | | 講義 |
| | 2. 看護過程で活用したい枠組みを考えよう！調べよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 3. 事例について、ポートフォリオを作ろう！病気について理解を深めよう | | | | | | 講義・演習 |
| | 4. 事例の全体像を捉えてみよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 5. 情報（身体面・心理面・社会面）に着目しカテゴリーに整理しよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 6. 整理した情報（身体面・心理面・社会面）を発表しよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 7. 事例の全体像を追加・修正しよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 8. 全体像の発表をしよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 9. 情報（三側面）の分析をしてみよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 10. 情報（三側面）の分析を意見交換してみよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 11. 看護問題を明確化し意見交換しよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 12. 全体関連図を意見交換しよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 13. 長期目標・短期目標・看護計画を意見交換しよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 14. 看護計画の実施、評価、修正について意見交換しよう！ | | | | | | 講義・演習 |
| | 15. 試験・解説 | | | | | | 試験・講義 |
| 成 績 評 価 | ・方法 筆記試験 50点 課題 50点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 詳細は第1回の講義の時に提示します。 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト ・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 ・香春知永他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論，医学書院。 ・小田正枝編集：ロイ適応看護理論の理解と実践，医学書院。 ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-------|--------------------|--------------|---|------------------|---------------|
| 科目名 | 成人看護概論 | 担当者 | 孕石 美絵 安達 百合 保健師 | 年次 | 1 | 単 位 時 間 | 30時間 ／1単位 |
| 学 修 内 容 | <p>本単元では成人の特徴と成人看護の特徴を学ぶ。主には、成人という対象の身体的・心理社会的特徴の理解と成人期にある人への看護に有用な考え方・目的について、グループワークや個人ワークなどを用いて学ぶ。成人看護の目的である地域行政における保健指導の視点も含めて、健康の維持・増進、疾病予防に向けた看護についての理解を深めていく。また、成人期に特徴的な健康障害への影響について理解する。更に成人を看護するうえでの重要な基本的アプローチについての理論を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学における各発達段階の特徴を理解する。 2. 成人期における身体的・心理的・社会的特徴を理論と関連付けて理解を深める。 3. 健康の維持・増進、疾病予防に向けた看護について理解する。 4. 成人期に特徴的な健康障害について理解を深める。 5. 成人を看護するときの基本的アプローチについて理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1,2回：成人期にある対象の理解 | [孕石] | | | | | 講義 |
| | 第3～5回：成人期にみられる健康問題 | [孕石] | | | | | 講義・グループワーク・発表 |
| | 第6,7回：成人期の健康問題① ② | [孕石] | | | | | 講義 |
| | 第8～12回：成人看護に有用な理論 | [安達] | | | | | 講義 |
| | 第13,14回：成人期にある人への保健活動の実際 | [保健師] | | | | | 講義 |
| | 第15回：試験 | [安達] | | | | | |
| 成 績 評 価 | <p>・方法 筆記試験と夏休みの課題</p> <p>試験の点数配分は、孕石担当：夏休み課題レポート20点、夏休みインタビュー10点、筆記試験30点 合計60点</p> <p>安達担当：筆記試験40点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <p>・事前課題</p> <p>・留意点 夏季休暇には本単元で扱う内容についての課題を出します（評価対象になります）。新聞記事を使用するため、購読していない人は、購読している人に頼むなど、使えるよう自分で準備して下さい。</p> | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <p>・テキスト ・安酸史子ほか編集：ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論，メディカ出版。</p> <p>・必要物品 ・グループワーク時は、フェイスシールドを必ず用意して下さい。</p> | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | | |
|---|--|-----|--------------|--------------|-----|----------------------------------|--------------|--------------|
| 科目名 | 老年看護概論Ⅰ | 担当者 | 杉渕美里 竹田直子 | 小林有希子 保健師 | 年次 | 1 | 時間 単 位 | 30時間／1単 位 |
| 学 修 内 容 | 老年期にある人の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、高齢者の生活の現状を、高齢者を取り巻く社会の視点を通して理解していく。 | | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の加齢に伴う身体的・心理的・社会的な変化の特徴を理解する。 2. これまで生きてきた背景を理解し、高齢者の生活と健康について理解する。 3. 高齢者をとりまく社会の変化と、高齢者と家族のつながりを理解する。 4. 保健医療と福祉制度に関する概要について理解する。 | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） | |
| 第 1回 | 老年者を知る | | | | 杉渕 | 講義 | | |
| 第 2回 | 老年期の発達と成熟 | | | | 杉渕 | 講義 | | |
| 第 3回 | 老年期の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と、 高齢者におこりやすい健康障害 | | | | 杉渕 | 講義・個人ワーク 講義・グループワーク 発表会・講義 | | |
| 第 4回 | | | | | 杉渕 | | | |
| 第 5回 | | | | | 杉渕 | | | |
| 第 6回 | 高齢者疑似体験 | | | | 小林 | 校内実習 | | |
| 第 7回 | 高齢者の生活と健康 | | | | 小林 | 講義 | | |
| 第 8回 | 高齢社会における保健医療福祉(part1) 高齢者と家族の機能、保健医療福祉制度の変遷 | | | | 竹田 | 講義 | | |
| 第 9回 | 高齢社会における保健医療福祉(part2) 介護保険制度の整備、高齢者医療のしくみ | | | | 竹田 | 講義 | | |
| 第 10回 | 高齢者の権利擁護 高齢者虐待、身体拘束、権利擁護のための制度 | | | | 竹田 | 講義 | | |
| 第 11回 | 高齢者におけるセクシュアリティ | | | | 竹田 | 講義 | | |
| 第 12回 | 地域における老人保健医療と介護保険の現状 | | | | 保健師 | 講義 | | |
| 第 13回 | 老年看護の特徴(自立支援・理論) | | | | 竹田 | 講義 | | |
| 第 14回 | 老年看護の役割 | | | | 杉渕 | グループワーク | | |
| 第 15回 | 試験 / グループワークの発表 | | | | 杉渕 | 試験／発表会 | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 杉渕:筆記試験(40点) 後半グループワークの参加姿勢と成果物(10点) 小林:筆記試験(15点) 竹田:筆記試験(35点) | | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・基準 本校の基準に沿って評価する。 ・事前課題 「高齢者のすごいところを紹介します」のテーマでレポート作成。方法は①高齢者へのインタビュー ②新聞記事等から見つける どちらでも可 ・留意点 第6回は動きやすい服装で参加 高齢者に関する日々のニュースや報道に関心を持つ | | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 ・必要物品 第6回時に雑誌や新聞、財布とお金、携帯電話 グループワーク時に、学内の文房具以外が必要なら各自で用意 | | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学の各系統 医学書院 ナーシンググラフィカ「高齢者の健康と障害」 南江堂 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | | |
|-----------|---|--|---------------------|--|---|----------|--------------|---------|
| 科目名 | 母性看護概論Ⅰ | 担当者 | 増田瑞枝 草野恵子 保健師 | 年次 | 1 | 時間 単位 | 25時間 1単位 | |
| 学修内容 | <p><母性看護の基盤となる概念と母性を取り巻く環境の理解> 母性看護学の基盤となる概念について理解し、母性を取り巻く環境について家族や地域、文化社会の視点で理解していく。現代社会における様々な母性に関する問題を、自分達の問題として捉え、母性を取り巻く環境を理解する。また、母性看護における倫理について、母性のライフスタイルの変化や医療技術の進歩ということ踏まえ考える。これらのことを通して、母性看護の在り方について理解していく。</p> | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性の多様な捉え方や、現代女性の生き方、リプロダクティブヘルス・ライツの考え方など、母性の基盤となる概念について理解する。 2. 母性を取り巻く環境について、家族、地域、文化・社会の視点で理解し、現代社会における母性に関する問題について考える。 3. 地域における母子保健活動の実際を知り、看護の重要性を理解する。 4. 生殖医療を通して母性看護と倫理について考える。 | | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） | |
| | 第1回 | 母性看護ガイダンス 母性とは | 増田 | 事前課題の提出(プロジェクト学習) | | | | |
| | 第2回 | 母性看護の基盤となる概念 | 増田 | * 母性を取り巻く環境についてはプロジェクト学習という学習方法で学んでいく。詳細は授業時に説明する。 | | | | |
| | 第3回 | 母性看護の歴史 | 増田 | | | | | |
| | 第4回・5回 | 母性を取り巻く環境①② グループワーク | 増田 | * グループワークでまとめたことを他者に伝わるように発表する。一人1回以上は質問意見として発言する。 | | | | |
| | 第6回・7回・8回 | 母性を取り巻く環境③④⑤ 発表 | 増田 | | | | | |
| | 第9回 | 地域における助産師の活動 ～地域母子保健の中の助産所の役割～ (くさの助産院) | 草野 | | | | | * 所感の記入 |
| | 第10回 | 地域における母子保健活動 ～保健センターにおける母子保健活動～ | 保健師 | * 所感の記入 | | | | |
| | 第11回 | 母性を取り巻く環境 まとめ (母子保健統計、法律を含む) | 増田 | * 所感の記入 | | | | |
| | 第12回 | 母性看護と倫理 母性看護の目的 | 増田 | | | | | |
| | 第13回 | 学科試験(増田) | | | | | | |
| 成績評価 | <p>・方法 ①事前課題(5点) ②グループワークの取組み(5点) ③グループワークのまとめ(5点) ④凝縮ポートフォリオ(5点) ⑤筆記試験(80点) 授業の取組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・事前課題 事前学習として夏休みに課題があります。内容は、「母性に関する社会問題について関心をもったテーマについての資料を集める」です。詳しくは事前にお知らせします。</p> <p>・留意点 日頃から母性に関する社会問題に関心をもち、新聞記事などを集めておいてください。初めて学ぶ母性看護学です。興味関心をもち、考えることを大事にしてほしいと思います。</p> | | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 森恵美他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学(1) 母性看護学概論, 医学書院 2. 厚生統計協会:国民衛生の動向, 厚生統計協会 <p>・必要物品 20Pくらいのポケット式クリアファイル</p> | | | | | | | |
| 参考文献 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 吉沢豊予子他編著:女性の看護学, メヂカルフレンド社 2. 新道幸恵編著:母性看護概論 母性保健/女性のライフサイクルと母性看護, メヂカルフレンド社 3. 村本淳子他著:ウィメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護, ヌーヴェルヒロカワ 4. 高橋真理他著:ウィメンズヘルスナーシング概論 女性の生涯発達と看護, ヌーヴェルヒロカワ | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---------------|--|-----|-------|----|---|------------|------------------------|
| 科目名 | 社会学 | 担当者 | 小林 哲也 | 年次 | 2 | 間 単 時 位 | 30 時間 /1単位 |
| 学修内容 | <p>・看護が必要な人を中心とした個人の生活、集団としての家族、社会としての地域の諸相や抱える課題について理解する。</p> <p>・現代社会の変動について、都市化、高齢化、グローバル化などその特徴について理解する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>看護が必要な人が健康な生活を送るためには、病気を治すことだけでは成り立ちません。その人がどのような人と暮らし、どのような集団に属し、どのような役割を担っているのか社会からの理解が必要となります。また、現在の医療は、従来のように病院の中だけでは完結しなくなり、専門的な治療の必要がない人は、住み慣れた地域で療養する在宅医療が推進されています。つまり、地域での医療が求められているのです。以上のことから、この授業では、看護が必要な人の生活を社会から理解すること、在宅医療の推進ために地域を理解することが到達目標となります。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回：オリエンテーション | | | | | | |
| | 第2回：社会とは何か | | | | | | テキストp.14～p.18までを説明する |
| | 第3回：個人の生活の理解①－個人の生活の捉え方 | | | | | | テキストp.30～p.40までを説明する |
| | 第4回：個人の生活の理解②－ライフスタイルとQOL | | | | | | テキストp.41～p.53までを説明する |
| | 第5回：家族の理解①－家族の現在 | | | | | | テキストp.56～p.63までを説明する |
| | 第6回：家族の理解②－家族が抱える課題 | | | | | | テキストp.64～p.67までを説明する |
| | 第7回：家族の理解③－家族のケア機能 | | | | | | テキストp.68～p.75までを説明する |
| | 第8回：集団と組織の理解 | | | | | | テキストp.86～p.92までを説明する |
| | 第9回：個人および集団における対立と協働 | | | | | | テキストp.100～p.107までを説明する |
| | 第10回：地域社会の理解①－地域社会とは何か | | | | | | テキストp.110～p.117までを説明する |
| | 第11回：地域社会の理解②－地域社会における個人と集団 | | | | | | テキストp.117～p.121までを説明する |
| | 第12回：地域社会の理解③－地域社会が抱える課題 | | | | | | テキストp.122～p.127までを説明する |
| | 第13回：グローバル化と社会 | | | | | | テキストp.130～p.143までを説明する |
| | 第14回：現代社会の特徴 | | | | | | テキストp.20～p.26までを説明する |
| | 第15回：定期試験 | | | | | | |
| 成績評価 | <p>・方法 筆記試験</p> <p>・基準 本稿の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事前課題 ・留意点 | <p>・事前課題 各回のテキストの該当ページを提示しましたので事前に読んでおきましょう。</p> <p>・留意点 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用は禁止です。</p> | | | | | | |
| テキスト ・必要物品 | <p>・テキスト 『ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障① 健康と社会・生活』平野かよ子、渡戸一郎編 メディカ出版</p> <p>・必要物品</p> | | | | | | |
| 参考文献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|-----|----------------|----|---|------------|---|
| 科目名 | 病態生理演習 | 担当者 | 後藤 治美 小林有希子 | 年次 | 2 | 間 単 時 位 | 15時間 1単位 |
| 学修内容 | <p>本科目では、基礎看護実習Ⅱで受け持った患者の事例をもとに、プロジェクト学習という学習方法を用いて学習する。</p> <p>これまでに学んだ形態機能学、病態生理治療論、基礎看護学などの知識を活用し、実習で受け持った患者の理解を深め、不足していた知識について学習する。さらに、このプロセスから、患者理解に役立つ知識の活用の仕方とはどのようにすることなのか？何をどのように思考し、学習することが必要なのか？という、知識の活用法、学習法を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> ① 実習で担当した患者の苦痛や生活上の困難と、病態生理との関連が明確になる。 ② 学習のプロセスで得られた知識について理解する。 ③ 患者に行われていた看護、または必要と考える看護の根拠が明らかになる。 ④ 患者の理解を深め、看護の根拠を明確にするための知識の活用法を理解する。 ⑤ 人の身体のメカニズムや病態生理を理解する上での自己の課題を明確にする。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義ガイダンス(講義の進行・評価法) VISION→GOALを明確に！ 2. GOAL達成のために計画を練ろう！ 3. 実習メンバーと、VISION→GOALをみんなで共有 4. プレゼンテーション大会 ①（ポートフォリオを使って） 5. GOALに向かってさらに追求しよう！ 6. プレゼンテーション大会 ②（凝縮ポートフォリオを使って） 7. プレゼンテーション大会 ②（凝縮ポートフォリオを使って） 8. 自分の成長を確認しよう！（45分間） | | | | | | <p>講義</p> <p>個人ワーク</p> <p>グループプレゼンテーション</p> <p>* 学生からの他者評価 15点</p> <p>個人ワーク</p> <p>全体プレゼンテーション(6・7回)</p> <p>* 学生からの他者評価 15点</p> <p>* 凝縮ポートフォリオ提出 30点</p> <p>* 成長確認シート提出 20点</p> <p>※ 全体を通しての参加姿勢 20点</p> <p>上記の全てを合計し100点満点とします</p> |
| 成績評価 | <p>・方法 プレゼンテーションの他者評価30点・凝縮ポートフォリオ30点・成長確認20点・参加姿勢20点</p> <p>・基準 評価のためのルーブリックに沿って評価します。</p> | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・事前課題 1年次の春季休暇中に、VISION→GOALを考える。(GOALシートに記入)</p> <p>・留意点 自分の中で「これって何故だろう？」と問いを見出し、試行錯誤しながら自分の目的(GOAL)に向かって学習を進めていきます。簡単に他者に頼って答えを求めるのではなく、自分で目的を持って考え、解決していく学習力、思考力が身につくように努力しましょう。また、他者の学習内容や考えを見聞きする機会を多く設けています。他者から学ぶことも意識して授業に臨んでください。</p> | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学, 医学書院. ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進, 医学書院. ・増田敦子 著：解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・高木永子 監修：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, 学研メディカル秀潤社. <p>・必要物品</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基礎看護実習Ⅱの実習ファイル(ポートフォリオ) ② A4サイズのポケット式ファイル(20ポケット以上のもの) ③ 付箋(大きさ・カラー複数用意) | | | | | | |
| 参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木敏恵 著：プロジェクト学習の基本と手法, 教育出版. ・鈴木敏恵 著：ポートフォリオとプロジェクト学習, 医学書院. | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|-----|------------------|----|---|------------|------------------|
| 科目名 | 臨床看護演習 | 担当者 | 西川 はるみ 朝比奈 結華 | 年次 | 2 | 間 単 時 位 | 30時間 1単位 |
| 学修内容 | <p>看護師医療者として、あらゆる場での健康状態の判断や対応が求められる。そのためには、状況に応じた臨床判断能力と実践力が必要である。臨床看護演習では、形態機能学、病態生理治療論、病態生理演習などで学習した基礎知識と基礎看護方法や基礎看護実習での学びを基に展開していく。事例から「気づく」「考える」という思考過程を踏みながら、その事例に応じた臨床判断と実践について計画し、そこから実施・評価・振り返りをもとに、さらに看護実践を修正し、看護実践者としての経験知を身につけていく。また、個々での学習や共同学習を通して、学び合う中で看護に必要なチームワークについて学ぶ機会にもしてほしい。さらに客観的臨床能力試験: Objective Structured Clinical Examination (OSCE) を受けることで、自己の状況判断力や看護実践力を知り、そこから自己の傾向や課題を明確にし、今後の実習への取り組み意欲が高められることを期待する。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1) 看護師に必要な臨床判断能力について理解する。 2) 既習の知識を統合し、状況に合わせた看護実践をする。 3) 主要症状におけるアセスメント・看護方法を能動的に学ぶ。 4) 共同学習を通して、チームワークの必要性や協調性を身につける。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) |
| | 第1回 看護師に必要な臨床判断能力とは | 西川 | 講義 | | | | |
| | 第2回 経過別看護とその特徴 | 西川 | 講義・グループワーク | | | | |
| | 第3回 経過別看護とその特徴 | 西川 | 講義・グループワーク | | | | |
| | 第4回 症状別看護(1)そのメカニズムと援助の根拠 | 西川 | 講義・グループワーク | | | | |
| | 第5回 症状別看護(1)そのメカニズムと援助の根拠 | 西川 | 講義・グループワーク | | | | |
| | 第6回 症状別看護(2)そのメカニズムと援助の根拠 | 朝比奈 | 講義・グループワーク | | | | |
| | 第7回 症状別看護(2)そのメカニズムと援助の根拠 | 朝比奈 | 講義・グループワーク | | | | |
| | 第8回 事例3から考えた看護の思考(グループ)と必要な援助 | 朝比奈 | 講義・グループワーク | | | | |
| | 第9回 症状別看護(3)そのメカニズムと援助の根拠 | 西川 | 講義・グループワーク | | | | |
| | 第10回 症状別看護(3)そのメカニズムと援助の根拠 | 西川 | 講義・グループワーク | | | | |
| | 第11回 } OSCE 与えられた課題について看護を実践し、振 | 朝比奈 | 技術試験 | | | | |
| | 第12回 } | 朝比奈 | | | | | |
| | 第13回 凝縮ポートフォリオの作成 | 西川 | 講義・個人ワーク | | | | |
| | 第14回 凝縮ポートフォリオの発表 | 朝比奈 | プレゼンテーション | | | | |
| | 第15回 凝縮ポートフォリオの発表(続き) | 朝比奈 | プレゼンテーション | | | | |
| 成績評価 | <p>・方法 取り組み姿勢(出席・講義俯瞰・提出期限・元ポートフォリオ)30% 共同学習(自己評価・他者評価)10% OSCE30% 凝縮のポートフォリオ20% 成長確認10%</p> <p>・基準 評価基準などに沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・事前課題が出た際には、必ず取り組んで来てください。 ・演習では、個人が積極的に学習し、他者の意見を尊重し合い、患者・看護への関心と学びを深め、自己の生活援助技術能力の向上を目指してほしいと思います。</p> | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香春知永他著：系統看護学講座 専門基礎分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論, 医学書院. ・高木永子監修：New看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. 他多数 ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. ・熊谷たまき他監修：フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メデックメディア. | | | | | | |
| 参考文献 | <p>・臨床判断・臨床推論に関連した書籍 複数 ・看護技術・看護方法に関する書籍 複数</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|------------------------------|----|---|------------------|---------------|
| 科目名 | 成人看護方法Ⅰ | 担当者 | 西川 はるみ 寺岡 智子 福與 彩子 橋本 恵利子 | 年次 | 2 | 単 位 時 間 | 30 時間 ／1単位 |
| 学 修 内 容 | <p>～セルフマネジメントを獲得しようとする人への看護～</p> <p>慢性期にある人への看護は、入院を中心とする看護から外来や在宅での看護に比重が移ってきている。このような中、看護者は、多様化している患者の価値観や生き方を理解し、患者が自分自身で病気のある生活をマネジメントする力を身につけられるように具体的な知識・技術を提供すると共に、様々な役割をもった1人の生活者として主体的に生きられるよう働きかけることが重要である。対象が自らの問題に気づき、自ら意思決定したやり方で病気と折り合いをつけて生活を拡大し、その人らしい生活が営めるよう支援していく方法を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. セルフマネジメントを必要とする人を諸理論を活用しながら理解する。 2. セルフマネジメントを推進していく過程を理解する。 3. セルフマネジメント獲得を目指す看護の実際を理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1～3回：セルフマネジメントを必要とする人の理解と諸理論 | | | | | | |
| | 内部環境調節機能障害のある患者への看護(糖尿病) | | 〔西川〕 | | | | 講義・グループワーク |
| | 第4～6回：セルフマネジメントに向けての看護の役割 | | | | | | |
| | 内部環境調節機能障害のある人への看護(慢性腎不全) | | 〔橋本〕 | | | | 講義・グループワーク |
| | 第7～14回：セルフマネジメント獲得を目指す看護の実際 | | | | | | |
| | 栄養摂取・代謝障害のある人への看護(肝硬変) | | 〔寺岡〕 | | | | 講義・グループワーク |
| | 内分泌機能障害のある人への看護(甲状腺機能障害) | | 〔橋本〕 | | | | 講義・グループワーク |
| | 循環機能障害のある人への看護(心不全) | | 〔福與〕 | | | | 講義 |
| | 第15回：試験 | | 〔西川〕 | | | | |
| 成 績 評 価 | <p>・方法 筆記試験 試験の点数配分は、西川20点、寺岡20点、福與20点、橋本40点 合計100点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <p>・事前課題 事例を用いて、授業を行っていきます。授業項目に書かれている疾患に関わる臓器の正常な機能や、疾患により現れる症状とのつながり、必要な検査や治療の根拠を事前に学習しておいてください。</p> <p>・留意点</p> | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <p>・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [6]代謝・内分泌 [8]腎泌尿器 [3]循環器 [5]消化器 ・江口正信著：検査値早わかりガイド，サイオ出版。</p> <p>・必要物品 ・グループワークの時は、フェイスシールドを用意して下さい。</p> | | | | | | |
| 参 考 文 献 | <p>・安酸史子ほか編集：ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論，メディカ出版。</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|------|---|----|---|------------------|--------------|
| 科目名 | 成人看護方法Ⅱ | 担当者 | 西川はるみ 竹田直子 石川智也 浅野太志 長坂信次郎 藤田智和 片山聖治 福與彩子 | 年次 | 2 | 単 位 時 間 | 30時間 ／1単位 |
| 学 修 内 容 | ～健康危機状況にある人を支える看護～ 手術等の侵襲的治療を受ける人の健康危機状況と看護の特徴を学ぶ。人の身体には侵襲が加わっても創傷を修復し、乱された平衡状態を取り戻す非特異的な生命反応が備わっている。このような自然治癒力が患者の回復に効果的に作用し、侵襲から早期回復を促進するよう援助するために必要な知識と技術を学習する。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 1. 健康危機状況にある成人の特徴を理解する。 2. 手術侵襲に対する生体反応と回復過程を理解する。 3. 手術前、手術中、手術後の看護を理解する。 4. 手術合併症の知識を使いながら、シミュレーション学習を通して術後観察を体験する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1～3回:周手術期にある人の特徴と理解 | | [福與] | | | | 講義 |
| | 手術侵襲による生体反応・術後疼痛・麻酔による影響・術後合併症 | | | | | | |
| | 第4回:手術療法を受ける患者の理解と看護の実際 | 術前看護 | [石川先生] | | | | 講義 |
| | 第5回:手術療法を受ける患者の理解と看護の実際 | 術中看護 | [浅野先生] | | | | 講義 |
| | 第6,7回:手術療法を受ける患者の理解と看護の実際 | 術後看護 | [長坂先生・藤田先生] | | | | 講義 校内実習 |
| | 第8～11回:周手術期にある人への看護 | | [竹田] | | | | TBL |
| | 消化・吸収機能障害のある患者への看護(胃がん) | | | | | | |
| | 第12,13回:救命救急治療を必要とする状況 | | [片山先生] | | | | 講義 |
| | 循環機能障害のある人への看護(虚血性心疾患) | | | | | | |
| | 第14回:標準12誘導心電図(A・Bに分かれる) | | [西川] | | | | 校内実習 |
| | 第15回:試験 | | [西川] | | | | |
| 成 績 評 価 | ・ 方法 筆記試験 試験の点数配分は、西川20点、竹田40点、福與40点、合計100点です。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・ 事前課題 夏季課題をしっかりと行い、TBL学習に参加するようにしてください。(事前に課題提示します) ・ 留意点 授業中、テキストに大切なことを書き込んだり、線を引いたり、付箋を貼ったりして、学習したことを臨地実習でスムーズに活用できるよう工夫をして質問してください。予習ももちろん大切ですが、復習を十分に行なってください。わからないところ積極的に質問してください。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・ テキスト ・矢永勝彦他編集:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院. ・井上智子編集:パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ, 照林社. ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学, 医学書院. [3]循環器 [5]消化器 ・江口正信著:検査値早わかりガイド, サイオ出版. ・ 必要物品 グループワークや校内実習ではフェイスシールドを忘れず用意して下さい。 校内実習の時は、ポロシャツとジャージで出席してください。 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | ・安酸史子ほか編集:ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版. ・高木永子監修:New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|---------------------------------|--------------|---|------------------|--------------|
| 科目名 | 成人看護方法Ⅲ | 担当者 | 安達 百合 片山 聖治 河原崎 まどか 山邊 優子 | 年次 | 2 | 単 位 時 間 | 30時間 ／1単位 |
| 学 修 内 容 | <p>～セルフケア再獲得を目指す人への看護～ 健康障害による影響からセルフケア能力が低下し、生活の変化を余儀なくされた人の身体的・心理的・社会的側面を理解する。そして、セルフケア能力を維持・回復するとともに、他職種とも連携し残された能力を生かして生活できるように支援する具体的な援助を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. セルフケアの低下状態にある成人を理解する。 2. セルフケア再獲得を支援するチームアプローチの必要性と、構成メンバーの一員としての看護師の役割を理解する。 3. セルフケア再獲得を目指す看護の実際を理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1～3回：運動機能障害のある人への看護（関節リウマチ） | | | 〔安達〕 | | 講義 | |
| | 第4～6回：運動機能障害のある人への看護（骨折） | | | 〔片山先生〕 | | 講義 | |
| | 第7～9回：脳・神経機能障害のある人への看護（脊髄損傷） | | | 〔安達〕 | | 講義 | |
| | 第10～12回：脳・神経機能障害のある人への看護（脳血管障害） | | | 〔山邊先生〕 | | 講義 | |
| | 第13,14回：消化・吸収機能障害のある人への看護（人工肛門造設） | | | 〔河原崎先生〕 | | 講義 | |
| | 第15回：試験 | | | 〔安達〕 | | | |
| 成 績 評 価 | <p>・方法 筆記試験 試験の点数配分は、安達50点、片山先生25点、山邊先生25点 合計100点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <p>・事前課題 外傷や疾患により、それまで普通に行えていたことができなくなるといったセルフケアが低下した状態に陥った人が、セルフケアを再獲得し、再び「その人らしく生きていく」ための看護支援について学んでいきます。そのためにはまず、機能の正常な状態や、機能障害により現れる症状とのつながりや、必要な治療や検査についても事前に学習しておいてください。成人看護概論で学習した「アンドラゴジー」や「危機理論」等についても十分に復習しておきましょう。</p> | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <p>・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学, 医学書院. [5]消化器 [7]脳神経 [10]運動器 [11]アレルギー 膠原病 感染症 ・江口正信著:検査値早わかりガイド, サイオ出版. ・氏家幸子監修:成人看護学 D. リハビリテーション患者の看護, 廣川書店.</p> <p>・必要物品</p> | | | | | | |
| 参 考 文 献 | <p>・安酸史子他編集:ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論, メディカ出版 ・高木永子監修:New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken.</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|--------------------------------|----|--------|------------------|--------------|
| 科目名 | 成人看護方法Ⅳ | 担当者 | 孕石美絵 石井夕紀 黒木真紀 遠藤友香 寺田知生 | 年次 | 2 | 単 位 時 間 | 30時間 ／1単位 |
| 学 修 内 容 | ～緩和ケアを必要とする人への看護～ 緩和ケアのとらえ方、緩和ケアが必要な人とその家族を身体的・心理的、社会的側面から理解し、看護の視点について学ぶ。また、他職種と連携して苦痛を緩和し、生活を支える具体的な援助を学ぶ。また放射線療法・化学療法を受けている人への看護を学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 1. 緩和ケアを必要としている人とその人を取り巻く人々を理解する。 2. 終末期にある人とその人を取り巻く人々を理解する。 3. 緩和ケアが必要な人への看護の方法を理解する。 4. 終末期にある人への看護の方法を理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法(形成評価等を含む) |
| | 第1回:緩和ケア概論 | | | | [孕石] | 講義 | |
| | 第2回:緩和ケアにおける倫理的問題 | | | | [孕石] | 講義 | |
| | 第3,4回:緩和ケアにおけるコミュニケーション | | | | [孕石] | 講義・ロールプレイ | |
| | 第5～7回:放射線療法を受けている人を支える看護 | | | | [寺田先生] | 講義・グループワーク | |
| | 第8～10回:終末期にある人を支えるの看護の実際 | | | | [石井先生] | 講義・グループワーク・DVD鑑賞 | |
| | 第11回:終末期にある人の家族および遺族への看護 | | | | [黒木先生] | 講義・グループワーク | |
| | 第12回:エンゼルケア | | | | [黒木先生] | 講義・校内演習 | |
| | 第13,14回:化学療法を受けている人の日常生活を支える看護(乳がん) | | | | [遠藤先生] | 講義・グループワーク | |
| | 第15回:試験 | | | | [孕石] | | |
| 成 績 評 価 | ・ 方法 筆記試験とレポート 試験の点数配分は、孕石40点、石井先生(レポート)30点、寺田先生30点 合計100点です。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・ 事前課題 1年次に学習した放射線・化学療法などの治療について復習して臨んで下さい。 ・ 留意点 グループワークやロールプレイが中心の授業となります。自己の看護観を深められるように、積極的に参加しましょう。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・ テキスト ・常藤暎他編集:系統看護学講座 別巻 緩和ケア, 医学書院。 ・小林浩子他著:系統看護学講座 別巻 がん看護学, 医学書院。 ・福田国彦他著:系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学, 医学書院。 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学, 医学書院。〔2〕呼吸器 〔9〕女性生殖器官 ・江口正信著:検査値早わかりガイド, サイオ出版。 ・ 必要物品 グループワーク・ロールプレイの時は、フェイスシールドを忘れず用意して下さい 校内実習の時は、ポロシャツとジャージで出席してください。 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | ・一般社団法人 日本がん看護学会監修:患者の感情表出を促すNURSEを用いたコミュニケーションスキル, 医学書院。 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|-----|-------|----|---|----------|---------------|
| 科目名 | 成人看護過程展開技術 | 担当者 | 孕石 美絵 | 年次 | 2 | 時間 単位 | 30時間 /1単位 |
| 学修内容 | 看護過程展開技術を用いて、看護を必要としている成人期の人の特徴をとらえて、その人の力を活かして生活できるよう必要な援助を考え行動できる能力を養う。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 関連性を考えて、患者理解を関連図に表現することができる。 2. 事例から各様式、カテゴリーにおいて意味ある情報を見出すとともに、何故その状況が起きているのかを考え、関連因子を意識して看護上の問題を表現する。 3. 事例の個別性を踏まえ、看護の方向性を考えることができる。 4. 看護上の問題を意識し、個別性を活かした看護計画を立案する。 5. 臨地実習の体験等を統合し、看護の思考を活用することができる。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) |
| | 前半 | | | | | | |
| | 第1回: 成人期による各カテゴリーの特徴 | | | | | | 講義 |
| | 第2回: 事例展開1(糖尿病) 関連図・主要分析 | | | | | | 個人ワーク |
| | 第3回: アセスメントのポイント | | | | | | グループワーク・発表 |
| | 第4、5回: ラベルワーク「テーマ: 対象理解に必要なもの」 | | | | | | ラベルワーク |
| | 第6回: ラベルワーク発表会 | | | | | | 発表 |
| | 後半 | | | | | | |
| | 第7: 問題の整理・統合、優先順位、目標設定、計画立案のポイント | | | | | | グループワーク |
| | 第8回: 問題の整理統合・優先順位・看護計画立案についての考え方、グループ発表 | | | | | | 発表 |
| | 第9～10回: 事例展開2(脳梗塞) 身体的側面、心理社会的側面アセスメント | | | | | | 個人ワーク |
| | 第11回: 問題の整理統合・優先順位・看護計画立案についてグループで検討 | | | | | | グループワーク |
| | 第12回: 看護計画発表 | | | | | | 発表 |
| | 第13、14回: ラベルワーク「テーマ: その人に合わせた看護を実践する上で大切なこと」 | | | | | | ラベルワーク |
| | 第15回: ラベルワーク発表会 | | | | | | 発表 |
| 成績評価 | <p>・方法 前半40点、後半60点 合計100点</p> <p style="padding-left: 20px;">提出物、振り返り・取り組み姿勢で評価します。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・事前課題、留意点</p> <p>1年次に学習した看護過程について振り返り、そのしくみと要点を理解しておいて下さい。事例の機能障害は、まず正常な状態を事前学習しておくことと異常が明確となります。書き方を学ぶのではなく、考え方や着目点を学び、看護過程実習や各領域別実習での看護援助に活かせるようにします。</p> | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト: 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 I 基礎看護学②, 医学書院</p> <p>・必要物品</p> | | | | | | |
| 参考文献 | <p>・小田正枝編集: ロイ適応看護理論の理解と実践. 医学書院.</p> <p>・高木永子監修: New看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント, Gakken.</p> <p>・安酸史子ほか編集: ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論, メディカ出版.</p> <p>・江口正信著: 検査値早わかりガイド, サイオ出版.</p> <p>・系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 医学書院 [6]内分泌・代謝 [7]脳神経</p> <p>・永田明ら監修: 看護がみえるVol.4看護過程の展開. メディックメディア</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|--|-------------------|--|---|--------------|--------------|
| 科目名 | 老年看護概論Ⅱ | 担当者 | 渡邊幸弘 田村亨治 鈴木洋司 | 年次 | 2 | 時間 単 位 | 15時間 ／1単位 |
| 学 修 内 容 | 高齢者は加齢に伴う身体機能の変化により、成人と比較し罹患率の高い疾患がある。あるいは老年症候群のように日常の中に潜む健康障害が、既往疾患を増悪させ致命的な状態を引き起こしたりする。このように微妙なバランスの上に立つ高齢者の健康状態を理解し、高齢者特有の疾患の成り行きを理解する。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 老化に伴う身体機能の変化によっておこる高齢者の代表的な疾患の特徴をふまえ、その病態・症状・治療・予後・予防方法について理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1回 | 循環器機能の低下によって起こる疾患 — 心不全、虚血性心疾患、不整脈 | 渡邊 | ・スライド講義 ・小テスト | | | |
| | 第2回 | 感覚器の機能低下によって起こる疾患 — 白内障、緑内障、老人性難聴 腎・泌尿器の機能低下によって起こる症候・疾患 — 腎不全、前立腺肥大症 | 渡邊 | | | | |
| | 第3回 | 内分泌・代謝機能の低下によって起こる症候・疾患 — 甲状腺疾患、骨粗鬆症 | 渡邊 | | | | |
| | 第4回 | 消化器機能の低下によって起こる疾患 — 胃腸疾患、肝胆膵疾患、がん | 渡邊 | | | | |
| | 第5回 | 脳の変性疾患 認知症とはどのような状態をさすのか？意識障害やせん妄との違い、認知症の種類と特徴、パーキンソン病・パーキンソン症候群の症状 | 鈴木 <3時間> | ・質問しながらスライド講義 | | | |
| | 第6回 | 呼吸器系感染性疾患 誤嚥性肺炎、レジオネラ、MRSA感染症など | 田村 | ・教科書の内容に各種疾患の国内ガイドラインなどの内容を加えて、なるべく新しい知見を紹介する。 | | | |
| | 第7回 | 老年症候群—脱水、熱中症、低栄養など 長期臥床によって起こる症候・疾患—褥瘡・廃用症候群など | 田村 | | | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 筆記試験 渡邊先生：50点 鈴木先生：20点 田村先生：30点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 関連する病態生理治療論の復習 ・留意点 日頃、疑問に思っていることを質問して欲しい(鈴木) 講義後にもしっかり復習してください。(田村) | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 第5回時に併用 ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 各系統 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|---|---------------------------------------|----|---|--------------|--------------|
| 科目名 | 老年看護方法Ⅰ | 担当者 | 杉淵美里 竹田直子 八木寿乃 増田未知子 小池幸子 大塚さおり | 年次 | 2 | 時間 単 位 | 30時間 ／1単位 |
| 学修内容 | 老化による身体的・心理的機能の低下を考慮しながら、基礎看護学で学んだ日常生活援助の技術を基盤に、高齢者に適した方法で自立が促せるよう看護方法を学ぶ。また、高齢者に起こりやすい健康問題とその看護方法について学ぶ。さらに高齢者の健康段階に応じた福祉施設における看護の機能やその役割について学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の日常生活における基本的看護の方法について理解する。 2. 高齢者に起こりやすい健康障害について理解し、その予防と看護方法について理解する。 3. 介護福祉施設における看護の役割と機能について理解する。 4. 福祉レクリエーションを体験し身体的効果、精神的効果を知る。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法(形成評価等を含む) |
| | 第 1回 | 老年看護の基本、老年看護の機能と役割、 高齢者の日常生活動作と環境のアセスメントと看護 | | 杉淵 | | | 講義 |
| | 第 2回 | 食生活、摂食・嚥下機能のアセスメントと看護 | | 杉淵 | | | 講義 |
| | 第 3回 | 排泄障害のアセスメントと看護 | | 杉淵 | | | 講義 |
| | 第 4回 | 老年者の清潔行為のアセスメントと看護 | | 杉淵 | | | 講義 |
| | 第 5回 | 老年者のおむつ交換 | | 杉淵 | | | 校内実習 |
| | 第 6回 | 高齢者のコミュニケーション | | 八木 | | | 講義 |
| | 第 7回 | 生活リズム、活動・睡眠障害のアセスメントと看護 | | 八木 | | | 講義 |
| | 第 8回 | 転倒のアセスメントと看護 | | 八木 | | | 講義 |
| | 第 9回 | 寝たきり予防、廃用症候群のアセスメントと看護 | | 八木 | | | 講義 |
| | 第 10回 | 介護老人福祉施設の看護 | | 大塚 | | | 講義 |
| | 第 11回 | 認知症高齢者の理解 | | 竹田 | | | 講義 |
| | 第 12回・13回 | 認知症に対する関わり方 ①認知症の基礎的知識 ②認知症の神経心理テストと判定 ③認知症 ステージ別症状と関わり④認知症のスピリチュアル ⑤認知症の脳活性化 リハビリテーションとは ⑥認知症の予防 ⑦レクリエーションの実施 | | 増田 | | | 講義及び演習 |
| | 第 14回 | 福祉レクリエーション ①福祉レクリエーションとは ②体験を通して人との関わる楽しさを体感する | | 小池 | | | 演習 |
| | 第 15回 | 試験(45分)／演習 旅のことは(45分) | | 竹田 | | | 試験／演習 |
| 成績評価 | ・方法 杉淵:筆記試験(40点) 竹田:筆記試験(15点) レポート(10点) テーマ「認知症を持つ高齢者との関わり方」 八木講師:筆記試験(35点) 講義後の課題提出状況により筆記試験から減点する ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題 | ・事前課題 老年期にある人の身体・心理・社会的側面の変化について復習して臨む ・留意点 ノートをとること。メール、スマホは見ない、持ち込まない。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・テキスト 系統看護学講座専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 大塚真理子 カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医師薬出版株式会社 堀内ふきら ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・必要物品 演習で使用する物品は学校で用意するのでセッティングに協力してください。 | | | | | | |
| 参考文献 | 山田律子ら 生活機能から見た老年看護過程 医学書院 本田美和子 ユマニチュード入門 医学書院 増田未知子 ポケからのカムバック 静岡新聞社発行 増田未知子 スリーA増田方式による認知症予防ゲーム 静岡新聞社発行 井庭崇、岡田誠 編著 旅のことは 認知症とともによりよく生きるためのヒント 丸善出版 系統看護学講座専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|-----|--------------------|----|---|--------------|---|
| 科目名 | 老年看護方法Ⅱ | 担当者 | 杉渕美里 竹田直子 小林有希子 | 年次 | 2 | 時間 単 位 | 30時間／1単 位 |
| 学修内容 | 老年病の発症・悪化により医療的処置を受ける高齢者の病状の回復・安定を目指した看護方法を、健康の段階に応じて学ぶ。また、介護する家族のエンパワーメントを理解するとともに、介護負担を軽減するための看護の方法について学ぶ。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 高齢者の治療過程における看護方法について理解する。 2) 健康障害を持つ高齢者と家族への看護方法について理解する。 3) 終末期にある高齢者の看護方法について理解する。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 健康の段階と健康障害を持つ高齢者の理解（小林） ・第2回から第5回 誤嚥性肺炎の高齢者の看護（小林） ・第6回から第8回 認知症を持つ大腿骨頸部骨折・大転子部骨折の高齢者の看護（竹田） ・第9回から第11回 肺気腫・心不全を持つ高齢者の看護（杉渕） ・第12回から第14回 大腸がんの高齢者の看護（竹田） ・第15回 試験(45分)（竹田） 高齢者と災害看護(45分) | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・講義、グループワーク、個人ワーク ・講義、グループワーク、個人ワーク ・講義、グループワーク、個人ワーク ・講義、グループワーク、個人ワーク ・試験 ・講義 |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 小林:筆記試験(20点)+レポート(10点) 杉渕:筆記試験(10点)+課題(10点) 竹田:筆記試験(30点)+課題(20点) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 夏季休暇の課題:ポートフォリオ(誤嚥性肺炎・大腿骨頸部骨折・肺気腫・大腸がん) ・留意点 夏季休暇中に疾患の病態生理、症状、治療、検査、看護について事前学習をしてください。この学習と講義内容は自分でつなげて、看護を理解していきましょう 事例検討を行います。積極的に参加し自己の学びを深めてください。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座専門 老年看護学 医学書院 堀内ふき ナーシンググラフィカ『高齢者看護の実践』メディカ出版 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院 ・必要物品 ポートフォリオ | | | | | | |
| 参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院 大塚真理子 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社 正木治恵ら 老年看護学概論 南江堂 山田律子ら 生活機能から見た老年看護過程 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|---------------|----|---|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 小児看護概論Ⅰ | 担当者 | 亀澤ますみ 寺岡智子 | 年次 | 2 | 時間 単位 | 30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | <p>新生児から思春期、青年期までの小児期は成長発達が著しい。成長発達は自然なものであると同時に一定の法則があり、その原理原則に即している。発達の原則を踏まえ、加えて子どもが育つより良い環境を理解し、環境の一つである親や家族、地域などの社会のあり方を考えたい。そして、看護師として、健康な小児の日常生活での関わりについて、自立に向け各段階で発達を促す支援方法を学習する。また、言語の未発達から自ら訴えることが不十分な小児の身体的、精神的変化を早期に捉え観察するフィジカルアセスメントについても学習する。</p> | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 成長発達の段階と生活援助、支援の仕方を理解する 2) 成長発達の原理原則を理解し、評価の意味と方法を理解する 3) 小児フィジカルアセスメントの方法を理解する 4) 小児にとっての家族の特徴とアセスメントを理解する | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回：小児とは(亀澤) | | | | | | 講義 |
| | 第2回：小児の成長発達の特徴と原理(亀澤) | | | | | | 講義 |
| | 第3回：乳児期の成長発達の特徴と援助(寺岡) | | | | | | 講義 各期の発達段階の特徴と援助について、 事前学習あり。 |
| | 第4回：幼児期の成長発達の特徴と援助(寺岡) | | | | | | |
| | 第5回：学童期の成長発達の特徴と援助(寺岡) | | | | | | 第8回までの講義を基に演習 |
| | 第6回：思春期の成長発達の特徴と援助(寺岡) | | | | | | |
| | 第7回：「成長発達の評価」目的と方法（亀澤） | | | | | | 講義 演習 事前学習で行動ガイドを作成する |
| | 第8回：小児家族のアセスメント（亀澤） | | | | | | |
| | 第9回：小児期の特徴を踏まえた関わりと支援（亀澤） | | | | | | 演習 グループ毎にロールプレイで発表する |
| | 第10・11回：小児のフィジカルアセスメント(寺岡) | | | | | | |
| | 第12・13回：小児の身体計測とアセスメント(寺岡) | | | | | | 筆記試験 |
| | 第14回：小児の身体計測とアセスメント：ロールプレイ(寺岡) | | | | | | |
| | 第15回：試験・まとめ（亀澤） | | | | | | |
| 成 績 評 価 | <p>・方法 筆記試験(亀澤40%、寺岡60%)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する</p> | | | | | | |
| 事 前 課 題 | <p>・事前課題</p> <p>・小児各期の成長・発達段階について、事前学習したものを活用して授業を行います。</p> <p>・小児のフィジカルアセスメントの演習では事前学習をもとに実習、ロールプレイを行います。</p> <p>・留意点</p> <p>・みなさんが子供のころを思い出しながら、成長発達段階や環境について考えていきましょう。</p> <p>・子供たちが育っていく環境を理解するために、現代社会の子供たちに関するニュースや社会のニュースに関心を持ちましょう。</p> <p>・フィジカルアセスメントの演習では、新生児のモデル人形を用いて実習を行います。小児看護だけでなく、母性看護法Ⅱ、母性看護実習で必要な看護技術につなげていきましょう。</p> | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <p>・テキスト</p> <p>新体系看護学全書：小児看護学①「小児看護学概論小児保健」メヂカルフレンド社</p> <p>新体系看護学全書：小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」メヂカルフレンド社</p> <p>写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ</p> <p>・必要物品</p> <p>母子手帳</p> | | | | | | |
| 参 考 文 献 | <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学① 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院</p> <p>ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版</p> <p>根拠と事故防止から見た 小児看護技術 編集：浅野みどり 医学書院</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|--------------|--|---|----------|-------------|
| 科目名 | 小児看護概論Ⅱ | 担当者 | 久保田・熊谷・増井・北岡 | 年次 | 2 | 時間 単位 | 20時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | <p>小児期は、遺伝疾患、染色体異常、妊娠や出生時の影響などにより、成人期には見られない特有の疾患がある。また、成長発達途上では身体的特徴により病態や治療が新たな問題やその後の発達に影響を及ぼす事がある。さらに、発達途上の小児の理解力やコミュニケーション力は未熟なため、罹患した事や治療を継続する事が、その後の心理社会面に影響を与える場合もある。そのため、小児期の身体的成長の特徴を理解し、形態機能の特徴を踏まえて小児期にある代表的疾患とメカニズム、治療について理解する必要がある。看護師は、言葉では訴えられない小児をよく理解し、異常の早期発見、予防に努めるために病態と治療についての知識を深める必要がある。</p> | | | | | | |
| | <p>1) 其々の系統における代表疾患を理解する 2) 疾患の特徴的メカニズムを理解する 3) 疾患の治療について理解する</p> | | | | | | |
| | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| 授 業 計 画 | <p>第1回： 新生児疾患（久保田） 第2回： 循環器疾患（久保田） 第3回： 呼吸器、消化器疾患（久保田） 第4回： 免疫疾患・膠原病・アレルギー疾患（増井） 第5回： 感染性疾患（増井） 第6回： 内分泌疾患・発達障害（増井） 第7回： 小児医療の特殊性、遺伝子・染色体疾患（熊谷） 第8回： 神経系疾患（熊谷） 第9回： 腎疾患（熊谷） 第10回： 血液疾患（北岡）</p> | | | <p>講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義</p> | | | |
| 成 績 評 価 | <p>・方法 筆記試験（久保田30%、増井30%、熊谷30%、北岡10%）、取り組み姿勢。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <p>・事前課題 講義の前には、事前学習としてテキストを熟読して出席しましょう。</p> <p>・留意点 小児期の心身は、未熟で発達途上にあるため疾患に罹患しやすいという特徴があります。また、小児期特有の疾患や治療もありますので基本的な形態機能学、病態生理治療論などの既習科目は土台として学習して臨みましょう。</p> | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <p>・テキスト 新体系看護学全書：小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」メヂカルフレンド社</p> <p>・必要物品</p> | | | | | | |
| 参 考 文 献 | <p>新体系看護学全書：小児看護学①「小児看護学概論小児保健」メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|-----|----------|----|---|----------|--------------|
| 科目名 | 小児看護方法Ⅰ | 担当者 | 保健師・寺岡智子 | 年次 | 2 | 時間 単位 | 20時間 1単位 |
| 学修内容 | <p>子どもは発達途上にあり、自己表明や健康管理などの力が未熟なため、より良く育つ環境が整えられることが求められる。そのため、小児看護の対象は健康、不健康を問わず全ての小児とその家族である。看護師は、子どもたちの持つ4つの権利を守り、最善の利益が得られるよう努力する責務がある。子供たちが育つ家庭や保育園、学校、病院は勿論、地域などの様々な場に他職種が連携して活躍している。其々の場における看護の特徴と役割を学び、少子高齢社会での子育て支援などについても関心を広げたい。合わせて、小児の健全な発育のために、社会が支え護る事故防止、虐待防止、養育支援などの法律や制度について学習を深めたい。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>1)小児看護の理念や特質、考え方を理解する 2)様々な場での小児看護の必要性と役割を理解する 3)疾病や障がい、入院や治療が小児や家族に与える影響と看護を理解する</p> | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回： 子どもの家族を取り巻く社会(寺岡) | | | | | | 講義 |
| | 第2回： 小児看護の理念と倫理(寺岡) | | | | | | 講義 |
| | 第3回： 疾病や障がいを持つ子どもの理解(寺岡) | | | | | | 講義 |
| | 第4回： 疾病や障がいを持つ子どもの家族への看護(寺岡) | | | | | | 講義 |
| | 第5回： 小児看護の課題(寺岡) | | | | | | 講義 |
| | 第6回： 現在の母子保健活動の実際(保健師) | | | | | | 講義 |
| | 第7回： 地域での小児保健・福祉の問題点と対策(保健師) | | | | | | 講義 |
| | 第8回： 在宅療養での小児看護(寺岡) | | | | | | 講義 |
| | 第9回： 小児と家族に関する諸統計と現状(寺岡) | | | | | | 講義 |
| | 第10回： 試験・まとめ(寺岡) | | | | | | 筆記試験 |
| 成績評価 | <p>・方法 筆記試験 ・基準 本校の基準に沿って評価する</p> | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・事前課題 ・留意点 皆さんの生活の中で見かける子どもや家族の様子に関心を寄せましょう。子どもに関する新聞の記事やテレビの話題に目を向け、現代の子どもたちを取り巻く環境について看護学生として考えてみましょう。</p> | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト 新体系看護学全書:小児看護学①「小児看護学概論小児保健」メヂカルフレンド社 新体系看護学全書:小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」メヂカルフレンド社 ・必要物品</p> | | | | | | |
| 参考文献 | <p>小児ケアの為の発達臨床心理 岡堂哲雄 ヘルス出版 子ども・若者白書 内閣府 厚生労働白書 ー若者の意識を探るー 厚生労働省 国民衛生の動向 厚生労働省</p> | | | | | | |

授業概要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-------------------------------|----|----------|------------------|---|
| 科目名 | 在宅看護方法Ⅰ | 担当者 | 小林 有希子 朝比奈 結華 大井 陽江 吉田 五百枝 | 年次 | 2 | 単 位 時 間 | 30/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 在宅の場で看護援助を提供する場合、それぞれの生活スタイルを考慮し、療養者だけでなく家族を視野に入れた個別性のある援助が求められている。また、看護師は療養者の心身の状態を正しく把握し、適切な判断と処置を行っていく必要がある。そして、在宅での医療行為は、基本的に療養者、家族が行うことになるため、療養者や家族が安心して在宅療養生活を継続できるような教育・指導を行う必要がある。この単元では、基礎看護技術の原理原則を踏まえながら、日常生活を中心とした在宅看護技術と医療処置のある療養者・家族への在宅看護技術の基本を学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 1) 在宅看護技術の基本的な考え方を理解できる。 2) 在宅看護における療養者や家族への生活支援の方法と技術を理解する。 3) 基礎看護技術を応用・工夫した対象に合った在宅看護技術が考、実践することができる。 4) 医療処置のある在宅療養者・家族への援助が理解できる。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 《生活援助》 | | | | | | |
| | 第1回 在宅看護の基本姿勢とコミュニケーション技術(小林) | | | | | | 講義・校内実習 課題評価あり |
| | 第2回 在宅における活動と休息の援助(朝比奈) | | | | | | 講義・校内実習 課題評価あり |
| | 第3～5回 在宅における清潔の援助(小林) | | | | | | 講義・GW・校内実習 課題評価あり 第5回目の校内実習はA・Bに分かれる |
| | 第6～7回 在宅における食事の援助(朝比奈) | | | | | | 講義・GW・校内実習 課題評価あり |
| | 第8～9回 在宅における排泄の援助(朝比奈) | | | | | | 講義・校内実習 課題評価あり |
| | 《医療処置管理の支援》 | | | | | | |
| | 第10回 在宅における栄養管理とケア(大井) | | | | | | 講義 |
| | 第11～12回 在宅における呼吸管理とケア(吉田) | | | | | | 講義・校内実習 帝人による説明・体験 |
| | 第13回 在宅における排泄管理とケア(大井) | | | | | | 講義 |
| | 第14回 在宅における褥瘡予防とケア(大井) | | | | | | 講義 |
| | 第15回 試験 (小林) | | | | | | 講義 |
| 成 績 評 価 | ・ 方法 : 筆記試験(小林20%・朝比奈25%・吉田10%・大井15%) 課題評価と課題提出状況(小林15%・朝比奈15%) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・ 事前課題 なし ・ 留意点 全ての領域を含んでいます。今までの知識を用い応用や工夫をして楽しみながら看護を考えていきましょう。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・ テキスト 河原加代子他著: 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院. 押川眞喜子監修: 写真でわかる訪問看護, インターメディカ. ・ 必要物品 校内実習時に必要な物品を準備する。 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 杉本正子、眞船拓子編集: 在宅看護論-実践を言葉-第6版, ヌーヴェルヒロカワ. 木下由美子: 在宅看護論 新版, 医歯薬出版社. 三浦規他: ケアのこころシリーズ⑩在宅でのケア, インターメディカ. 角田直枝編集: スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社. 川村佐和子: 組織ケア力を高める在宅ケア高度実践術, 日本看護協会出版社. | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|----------------------|----|---|------------|--|
| 科目名 | 在宅看護方法Ⅱ | 担当者 | 小林有希子 吉田五百枝 朝比奈結華 | 年次 | 2 | 間 単 時 位 | 20/20時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 在宅療養者の背景は多様であり、年齢や疾病、障がいの程度も様々である。 本単元では、状態別の在宅療養者の状況を理解し、各々の在宅看護の展開について学ぶ。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 1)在宅における主な状態別の看護が理解できる。 2)在宅における看護過程の視点・展開が理解できる。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回 在宅看護の展開 感染症のある在宅療養者への看護(吉田) | | | | | | 講義 |
| | 第2回 寝たきりの在宅療養者への看護(小林) | | | | | | 講義 |
| | 第3回 認知症高齢者の在宅療養者への看護(小林) | | | | | | 講義 |
| | 第4回 ターミナル期の在宅療養者への看護(朝比奈) | | | | | | 講義 |
| | 第5回 難病の在宅療養者への看護(朝比奈) | | | | | | 講義 |
| | 第6～9回 在宅における看護過程の展開(吉田) | | | | | | 第6回:個人ワークで「ネットワーク図」と「私の捉えた療養者」を作成 第7・8回:個人ワークのものを元にGW実施 第9回:発表 |
| | 第10回:講義 学科試験(小林) | | | | | | 講義 |
| 成 績 評 価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法:筆記試験(小林30%・朝比奈30%・吉田20%)・課題評価(「ネットワーク図」5%「私の捉えた療養者」5GWの参加状況と発表内容(10%) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・留意点 在宅看護概論Ⅰ・Ⅱと在宅看護方法Ⅰの授業内容を復習して講義に臨んでください。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 河原加代子他著:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | <ul style="list-style-type: none"> 杉本正子、眞船拓子編集:在宅看護論-実践を言葉-第6版, ヌーヴェルヒロカワ 杉本正子、眞船拓子編集: 看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に取り組むために～, ヌーヴェルヒロカワ 木下由美子:在宅看護論 新版, 医歯薬出版株式会社 角田直枝編集:スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|---------------------------|----------------|--------------|---|------------|--------------|
| 科目名 | 総合医療論 | 担当者 | 香川 二郎 中村 利夫 | 年次 | 3 | 間 単 時 位 | 15時間 /1単位 |
| 学 修 内 容 | 保健医療に関する知識を修得し、看護師としての基本的態度を身につける。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその背景を総合的に知ることによって、専門職として社会に貢献する方向性、視点について理解する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法（形成評価等を含む） | | | |
| | 第1回：講義 | 医学、医療とは何か、生命について考える。 | （香） | 講義形式（配布資料等） | | | |
| | 第2回：講義 | 医学史 | | | | | |
| | 第3回：講義 | 健康・病気・医学の体系、病気の原因・症状 | | | | | |
| | 第4回：講義 | 病気の診断と治療 | | | | | |
| | 第5回：講義 | 病気の予防 | | | | | |
| | 第6回：講義 | 新しい医療システム | （中） | 試験 | | | |
| | 第7回：講義 | 生命へのアプローチ、健康教育と衛生統計 | | | | | |
| | 第8回：試験 | 試験（45分） | | | | | |
| 成 績 評 価 | ・方法 | 筆記試験、出席状況 | | | | | |
| | ・基準 | 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | ・事前課題 | | | | | | |
| | ・留意点 | 受講生への要望： 自主的な勉学を望みます。（中村） | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | ・テキスト | 系統看護学講座 別巻 総合医療論 | | 医学書院 | | | |
| | ・必要物品 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 系統看護学講座 専門基礎 医療概論 医学書院 | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|--|-----|-------|--|---|--------------|----------------|
| 科目名 | 医療安全と看護管理 (看護管理) | 担当者 | 達家 好美 | 年次 | 3 | 時間 単 位 | 10/30時間 1単位 |
| 学 修 内 容 | 看護管理の基本を理解する より良い看護を提供するための資源やしぐみについて知り、組織の一員として看護管理を考える | | | | | | |
| 到 達 目 標 | 看護管理の基本がわかり、必要な資源、組織の一員としての看護管理への理解を述べる ことができる | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | 方法 (形成評価等を含む) | | | |
| | 1. 看護管理とは 看護ケアのマネジメント 安全管理 チーム医療 2. 看護人材のマネジメント キャリア形成 キャリアディベロップメント 労働環境 3. 看護サービスのマネジメント 看護サービス提供のしぐみづくり 組織化 看護ケア提供システム 4. マネジメントに必要な知識と技術 リーダーシップ コミュニケーション 5. 看護を取り巻く諸制度 看護職と専門性 医療制度 法律 | | | 講義 講義 グループ演習 グループ演習 講義 | | | |
| 成 績 評 価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(40点分) 出席状況を加味する ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 参加型の授業となるよう心掛けるので、積極的に授業に取り組んでいただきたい | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 統合分野「看護管理」看護の統合と実践 医学書院 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|-----|----------------------|----|---|--------------|------------------|
| 科目名 | 医療安全と看護管理 (医療安全・看護倫理) | 担当者 | 竹田 直子 安達 百合 石川 嘉子 | 年次 | 3 | 時間 単 位 | 20/30時間 1単位 |
| 学修内容 | <p>これまでの安全管理では、インシデントや有害事象と呼ばれる、いわゆる「失敗事例」を分析の対象とし、それらを減らすことを目的としてきた。(Safety-I)近年は新しい医療安全へのアプローチとしてレジリエンス、エンジニアリング(Safety-II)が注目されている。双方のアプローチの特徴と違いを学び、医療安全について考える。また、医療安全の基盤には、看護職にふさわしい高い倫理観の確立が重要である。倫理的態度の要件である倫理的判断行動として、看護倫理の基本的知識を用いて事例を実際に考えてみる。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p>①医療安全の基本的知識を理解し、医療安全教育の必要性を認識するとともに、看護・医療事故予防に必要な能力・行動について考えることができる。 ②実際の場面や事例より、それぞれに具体的な対策を考えることができる。 ③看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行なうための枠組みを習得する。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法 (形成評価等を含む) |
| | 第1回 専門職に求められる倫理 看護倫理とは | 竹田 | | | | | 講義 |
| | 第2回 看護師における倫理的判断に必要な知識 看護の倫理原則 看護実践上の倫理的概念 | 竹田 | | | | | 講義 |
| | 第3回 実習場面で経験した、または感じた倫理上の課題の検討 | 竹田 | | | | | 個人ワーク グループワーク |
| | 第4回 グループワーク発表、まとめ | 竹田 | | | | | 発表会・講義 |
| | 第5回 医療安全と過失 看護事故の構造と防止対策 専門職としての責務と看護師の法的責任 | 竹田 | | | | | 講義 |
| | 第6回 医療安全の基礎 | 石川 | | | | | 講義 |
| | 第7回 危険予知トレーニング | 石川 | | | | | グループワーク |
| | 第8回 チームステップス・医療メディエーション | 石川 | | | | | 講義・ロールプレイ |
| | 第9回 実習場面での「ヒヤリハット体験」を共有化し、原因とプロセスから 医療安全を守るため守るための対策を考える | 安達 | | | | | グループワーク |
| | 第10回 筆記試験 グループワークの発表 ※講義予定は前後する可能性があるが、ご了承ください。 | 安達 | | | | | 発表会 |
| 成績評価 | <p>・方法 筆記試験:医療安全・看護倫理に関する基本的な知識の確認 (石川先生30点、竹田50点) レポート:テーマ「安心・安全な医療・看護を提供するため、どんな看護専門職を目指すか。 自己の課題にどう対応するか」 (安達 15点) 出席状況と参加態度:欠席しない、誠意と責任を持って参加する(5点)</p> <p>・基準 筆記試験:本校の基準に準ずる レポート:テーマ説明時に評価規準を提示する 出席状況と参加態度:課題学習やグループワークに責任を持つ意味で欠席は減点対象とする 提出期日や時間を厳守する。遅れると減点処理</p> | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・事前課題 「看護者の倫理綱領」をじっくり読んでくる。</p> | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト ①上泉和子:系統看護学講座統合分野「看護管理」看護の統合と実践①, 医学書院 ②川村治子:系統看護学講座統合分野「医療安全」看護の統合と実践②, 医学書院 ③東京医科大学看護専門学校:「よくわかる看護者の倫理綱領」, 照林社 ・必要物品:グループワーク時に、学内の文房具以外が必要ななら各自で用意</p> | | | | | | |
| 参考文献 | <p>茂野香おる他:系統看護学講座専門分野I「看護学概論」基礎看護学①, 医学書院 相馬孝博著、日本医療マネジメント学会監修:ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド, メディカ出版</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-----------|----|---|-----------------------|---|
| 科目名 | 国際看護 | 担当者 | 那須 ダグバ 潤子 | 年次 | 3 | 単 位 間 時 位 | 8時間 /1単位 |
| 学 修 内 容 | グローバル化する時代に必要とされる看護師の能力とは何か。本講義では、映像、資料などを手掛かりに、日本および国際社会に生じている諸問題について考えるほか、グローバルヘルスの現状と課題、国際保健政策、国際看護活動、外国人患者への看護などを学ぶ。世界の人びとの保健医療にかかわる現状を理解するとともに、国内外問わず異文化理解が重要であることを理解し、国際力豊かな看護師として成長するための基礎を養う。 | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外での国際看護活動をするための基礎的な方法を理解することができる。 2. 世界の保健医療の現状および健康問題と、国際看護活動における看護職の役割について理解できる。 3. 世界の多様性を考慮した看護実践について、自分の考えを述べることができる。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回 1. 世界の多様性、国際看護の概要 2. 異文化理解と看護 | | | | | | パワーポイントに沿った口演 参考資料の提示と説明 質疑応答 ディスカッション |
| | 第2回 3. 開発途上国と貧困 4. 看護の国際協力 | | | | | | 映像学習 授業評価アンケートの実施 |
| | 第3回 5. 在日外国人の看護 6. 医療通訳 | | | | | | |
| | 第4回 7. ジェンダーと差別 8. グローバル化時代の看護 | | | | | | |
| 成 績 評 価 | <ul style="list-style-type: none"> ・方法 課題レポート ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 世界の動向について、ニュース、新聞から情報を得ておく。 ・留意点 グループワーク、ディスカッションを行う場合は全員が発言し、積極的に講義に参加すること。普段から国内外の複数の新聞を読み、世界の動向を把握する習慣をつけることを推奨する。 | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 授業中に適宜資料を提示する。 ・必要物品 パソコン プロジェクター、スピーカー DVD映写機 | | | | | | |
| 参 考 文 献 | 国際看護学入門第2版 日本国際看護研究会編 医学書院2020 その他、授業中に適宜資料を提示する。 | | | | | | |


授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|--|-----|-------|----|---|------------|-----------------|
| 科目名 | 国際看護と災害看護 「災害看護」 | 担当者 | 櫻井 恵真 | 年次 | 3 | 間 単 時 位 | 時間 12/20 1単位 |
| 学修内容 | 災害は多くの人々の安全な日常生活を脅かす。重傷者以外にも平時であれば健康を維持できる方も健康を脅かされることが少なくない。その中で医療は物質的・環境的・人的に不足した中で行うことになる。災害医療の目的は平時ならば死亡することはないであろう防ぎうる死を1人でも少なくすることである。そのために災害時の医療現場のみならず、被災者の健康を守るための看護を考える。 | | | | | | |
| 到達目標 | 1) 災害による健康による健康への影響を理解する。 2) 災害時における医療活動を知る。 3) 災害時の看護活動を考える。 | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | 第1回 災害の種類 災害のメカニズム 災害による健康への影響 | | | | | | ・講義 |
| | 第2回 災害時における看護の役割と看護活動 | | | | | | ・講義 |
| | 第3回 災害サイクルと場に応じた看護活動 災害時の医療現場における看護活動 | | | | | | ・講義 |
| | 第4回 災害時に必要な医療看護技術 被災者の心理的特徴 | | | | | | ・講義 |
| | 第5回 各領域からみた災害支援 | | | | | | ・グループワーク、発表 |
| | 第6回 試験 | | | | | | ・筆記試験 |
| 成績評価 | ・方法 筆記試験(50点)、グループワーク発表(10点) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | ・事前課題 ・留意点 近年、地震、豪雨など、多くの人的・物的被害を伴う災害が多くあります。東海地震が予知され、何時起きても不思議ではありません。この地域で働くためには被害に対する知識をもって、その時に備える意識が必要です。自分に何が出来るかを考えると共に、知識を持つことで多くの人命を救うことに結びつけてほしいと思います。また、皆さんには地域の方から看護学生という期待も担っています。必ず災害は起こります。災害を他人事と思わずに学習してほしいです。 | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | ・テキスト ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 著者：黒田裕子 酒井明子 ・必要物品 グループワーク(第5回目講義)：模造紙、色マジック、グループワークで使用する担当領域のテキスト | | | | | | |
| 参考文献 | | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|-----------|---|-----|------------------|----|---|----------|--------------|
| 科目名 | 看護研究 | 担当者 | 亀澤 ますみ 吉田 五百枝 | 年次 | 3 | 単位 時間 | 30時間 /1単位 |
| 学修内容 | <p><研究の基礎> 専門職として看護における研究の必要性と看護研究の基礎知識を理解する。</p> <p><ケーススタディ> 看護研究の知識を土台として、ケーススタディの方法を演習を通して学ぶ。 自己の臨地実習をケーススタディにまとめる。</p> | | | | | | |
| 到達目標 | <p><研究の基礎> 1、看護研究の意義と必要性を理解し、研究への興味関心を高める。 2、看護研究の分野と研究方法について知る。 3、文献学習の必要性について理解する。 4、看護研究におけるモラルと倫理的配慮について考える。</p> <p><ケーススタディ> 1、ケーススタディの意義と方法を学ぶ。 2、3年次領域別実習の中からエピソードを記述し振り返ることで、糸口となる問題を認識し科学的に論じる。 3、問題の科学的解明に向けて、適切な文献を基に考察する。 4、ケーススタディの一連を学び、収録・抄録を作成し、他者に伝わるよう発表する。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| 成績評価 | <p>・方法 ・筆記試験(30%:研究の基礎)ケーススタディ(70%:担当教員)</p> <p>・基準 ・全体の総合計100%に対し、本校の規定に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事前課題・留意点 | <p>・事前課題 臨地実習での自己の課題やエピソードなどケーススタディの基となる事を記述しておく。 研究論文に触れ、論文の構成や記述の方法について慣れておく。</p> <p>・留意点 ケーススタディは、自己の実践を振り返り、看護における自己の課題や改善点を明確にする事が求められるので、真摯に自己と対峙する姿勢が求められる。そのためにも、研究における倫理的な態度について理解を深めることが重要である。</p> | | | | | | |
| テキスト・必要物品 | <p>・テキスト 坂下玲子:系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 森田夏実他:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社</p> <p>・必要物品 これまでの実習記録 開始後に指示する文献</p> | | | | | | |
| 参考文献 | <p>・南 裕子編:看護における研究、日本看護協会出版会</p> <p>・川村佐和子編:ナースンググラフィカ19 看護研究 メディカ出版</p> | | | | | | |

授 業 概 要

| | | | | | | | |
|---|---|-----|--------------------|----|---|------------------|---|
| 科目名 | 総合看護実践 | 担当者 | 竹田直子 吉田五百枝 孕石美絵 | 年次 | 3 | 単 位 時 間 | 30時間 ／1単位 |
| 学 修 内 容 | <p>専門分野Ⅰ・Ⅱに学びをもとに、「医療安全と看護管理」の学びを統合し、安全・安楽という看護の原理・原則を踏まえながら、複数の患者の看護を考える。優先順位や経済性、個別性を考慮した計画・実践を行う演習を通して、多重課題の状況下での看護を学ぶ。また自己の看護実践力を評価することで看護師になる人としての自己の傾向・課題を明確にし、臨床での実践につなげていく。</p> | | | | | | |
| 到 達 目 標 | <ol style="list-style-type: none"> 複数の事例を理解し、複雑な状況下での看護を計画し実践する演習を通して、様々な優先順位の決定や、他者と協働すること、複数受け持ちでの倫理的配慮や安全性の確保について、リアルな現場をイメージしながら理解する。 看護実践者としての自己の傾向に気づき、今後の課題を明確にする。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 授業テーマ | | | | | | 方法（形成評価等を含む） |
| | <p>9・10月期実習後 第1～3回：事例のリアルな設定(孕石) 第4～6回：関連学習をしながら行動計画の立案(孕石) 第7回：計画の実施(ロールプレイ①)(吉田) 第8回：振り返り、対象理解を深めて再計画(吉田)</p> <p>10・11月期実習後 第9回：臨床の複雑な状況をふまえて再計画(竹田)</p> <p>11月期実習後 第10回：計画の実施(ロールプレイ②)(吉田) 第11回：振り返り(吉田)</p> <p>統合実習後 第12回：統合実習での学びを共有、試験オリエンテーション(竹田) 第13、14回：客観的臨床能力試験(OSCE)(竹田) 第15回：凝縮ポートフォリオの発表(竹田)</p> | | | | | | <p>プロジェクト学習の方法で 学習を進めていきます</p>  |
| 成 績 評 価 | <p>・方法 OSCE80点（実技60点、リフレクション40点）、凝縮ポートフォリオ20点 合計100点の配点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p> | | | | | | |
| 事 前 課 題 ・ 留 意 点 | <p>・事前課題 事例に関する学習は、個人で計画的に行ってください。</p> <p>・留意点 総合看護実践は、現場のリアルな状況をイメージし、事例の複雑な状況に対応した看護を、どのように判断し、行動していくかをプロジェクト学習という方法で学んでいきます。詳しいことにつきましては、授業前にオリエンテーションをします。</p> | | | | | | |
| テ キ ス ト ・ 必 要 物 品 | <p>・テキスト 統合科目であるため、今まで学習したことすべての積み重ねです。特に指定するテキストはありません。</p> <p>・必要物品</p> | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | | |